

武蔵野市バリアフリー基本構想

現行基本構想の評価及び改定方針(案)

令和 2 年 3 月

武 蔵 野 市

目 次

1. はじめに	1
1. 1 武蔵野市バリアフリー基本構想の概要	1
1. 2 基本構想の評価の目的	2
1. 3 基本構想の評価の流れ	2
2. 特定事業計画の進捗状況	3
2. 1 地区別・特定事業別の事業着手率	3
2. 2 主な完了事業	4
2. 3 未着手事業とその要因	12
2. 4 今後の課題	16
3. 各主体による評価	18
3. 1 バリアフリーネットワーク会議	18
3. 2 関係団体アンケートによる利用者意見の収集	20
3. 2 関係団体ヒアリングによる利用者意見の収集	27
3. 4 既往資料からの市民意見の収集	34
4. 評価と改定に向けた課題	35
4. 1 基本構想の評価	35
4. 2 現行基本構想策定以降の社会情勢の変化	38
4. 3 改定に向けた課題	43
5. 改定方針(案)	45
5. 1 改定方針の目的	45
5. 2 改定の基本的な考え方	45
5. 3 改定の方向性	45
5. 4 改定の方針	46

1

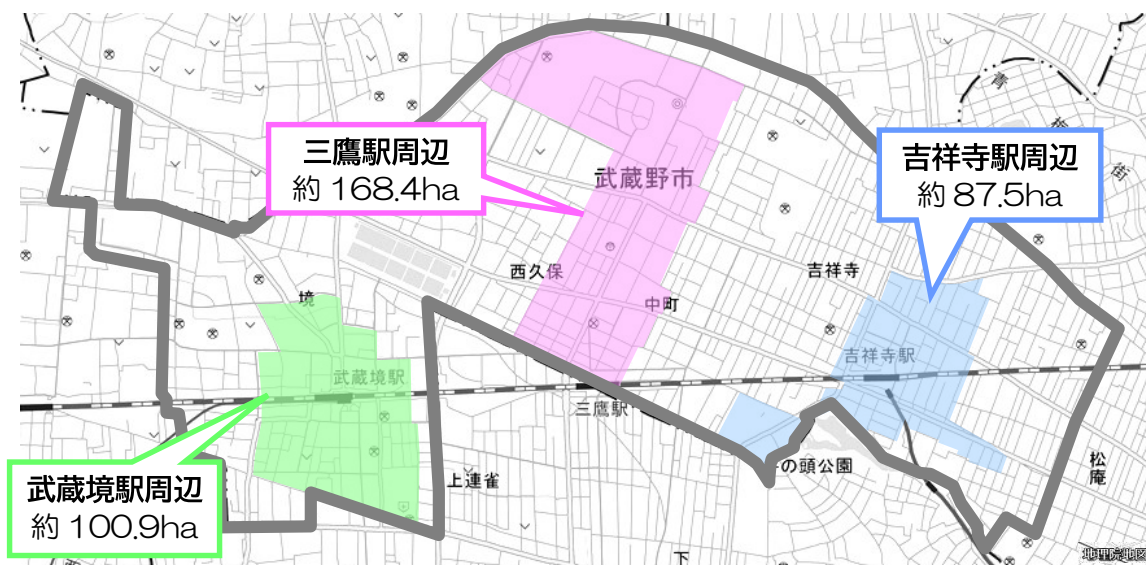
はじめに

1.1 武蔵野市バリアフリー基本構想の概要

市では、平成 23 年度に〇高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（以下、バリアフリー法と称す）に基づく「武蔵野市バリアフリー基本構想」（以下、基本構想）を策定しています。基本構想では、武蔵野市のバリアフリーに関する基本的な考え方を示し、ＪＲ及び京王電鉄吉祥寺駅・ＪＲ三鷹駅・ＪＲ及び西武鉄道武蔵境駅の３駅周辺地域を重点整備地区としています。

重点整備地区においては、地域別構想として各地域の基本的な方針や特定事業などをそれぞれ位置づけています。

◆ 武蔵野市バリアフリー基本構想における重点整備地区



◆ これまでの検討経緯

平成 12 年 11 月	「高齢者、身体障害者等の公共交通機関を利用した移動の円滑化の促進に関する法律」（交通バリアフリー法）の施行
平成 15 年 3 月	武蔵野市交通バリアフリー基本構想の策定（交通バリアフリー法に基づく）
平成 18 年 12 月	「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」（バリアフリー法）の施行（改正法）
平成 19 年 3 月	中間評価及び提言
平成 21 年 12 月 ～平成 22 年 3 月	基本構想の改定に向けた利用者からの評価、実施主体による確認
平成 23 年 4 月	武蔵野市バリアフリー基本構想の策定（バリアフリー法に基づく）
平成 23 年度 ～平成 27 年度	基本構想に基づき前期特定事業計画を作成し、事業を推進
平成 27 年度 ～平成 28 年度	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 前期特定事業計画の進捗状況の把握 ◆ 基本構想の中間評価
平成 28 年度 ～令和元年度	基本構想及び中間評価に基づき後期特定事業計画を作成し、事業を推進
令和元年度 ～令和 2 年度	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 後期特定事業計画の進捗状況の把握 ◆ 基本構想の評価・見直し

1.2 基本構想の評価の目的

武蔵野市バリアフリー基本構想では、基本構想の評価・見直しを行うことを位置づけており、委員会や移動に制約のある人をはじめ広く市民の意見を聞きながら実施することとしています。

現行基本構想の事業期間が令和2年度で終了することから、既に設置されている武蔵野市バリアフリーネットワーク会議（以下、ネットワーク会議）や、アンケート調査・ヒアリング調査等で得られた意見、特定事業等の進捗直状況に基づく現行基本構想の評価を行い、バリアフリー法改正等の社会情勢の変化も踏まえ、令和2年度の武蔵野市バリアフリー基本構想の改定に向けた課題を明確にし、改定方針を定めることを目的とします。

1.3 基本構想の評価の流れ

基本構想の評価の流れは以下の通りです。

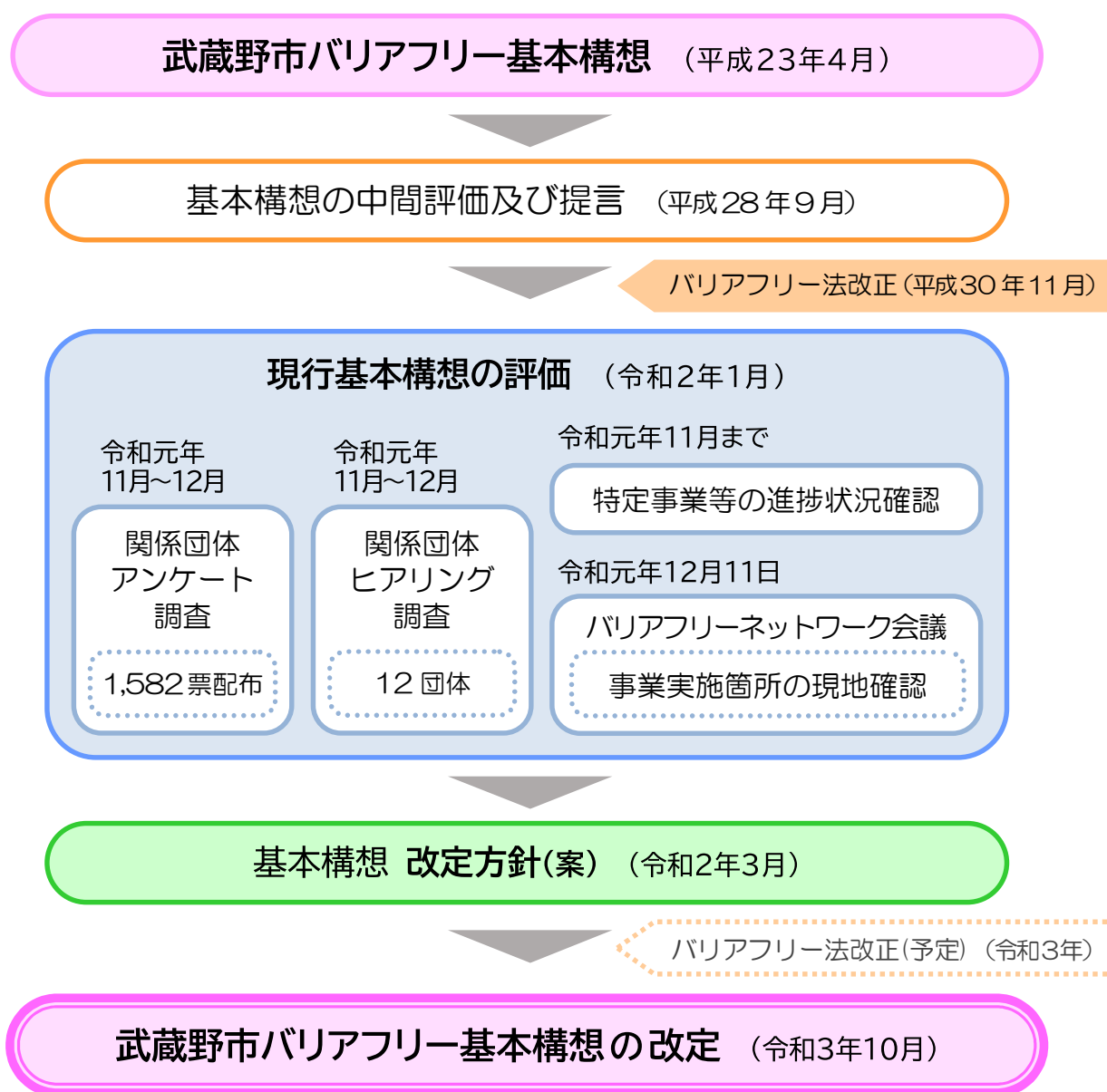


図 1-2 評価及び基本構想改定までの流れ

2

特定事業計画の進捗状況

2.1 地区別・特定事業別の事業着手率

武蔵野市バリアフリー基本構想策定後、各事業者は平成 23 年度から平成 27 年度に実施する事業内容について前期特定事業計画を作成しています。また、平成 28 年度から令和 2 年度においても実施する事業内容について後期特定事業計画を作成しています。これらの計画の進捗状況報告を基に、特定事業の進捗状況について整理しました。

基本構想及びその後の特定事業計画において特定事業は 640 事業（道路（共通）の事業は除く）が位置づけられています。全体の着手率は 83% となっており、吉祥寺駅周辺重点整備地区及び武蔵境駅周辺重点整備地区で最も事業が進んでいる状況です。交通安全特定事業はすべての事業が着手済みとなっています。公共交通特定事業や道路特定事業、都市公園特定事業、建築物特定事業では一部未着手の事業が残っています。主な未着手の原因としては、実施時期を展望期のみを設定している事業が含まれることや、事業者間の連携を要する事業であること、予算の確保が困難であることが挙げられます。

表 2-1 特定事業の進捗状況 前期＋後期（平成 23 年度～30 年度末）

地域	地区	事業状況	公共交通特定事業			道路特定事業				都市公園特定事業			建築物特定事業			交通安全 特定 事業	合計	実施状 況別割 合
			鉄道	バス		都道	市道	私道		都立	市立		公共 施設	民間 施設				
吉祥寺駅 周辺	吉祥寺駅周 辺重点整備 地区	事業数	25	57	82	6	24	8	38	11	0	11	57	43	100	7	238	
		完了	19	13	32	4	9	1	14	6	0	6	28	18	46	1	99	42%
		実施中	6	39	45	2	5	4	11	4	0	4	18	17	35	6	101	42%
		検討中	0	4	4	0	3	0	3	0	0	0	7	2	9	0	16	7%
		未着手	0	1	1	0	7	3	10	1	0	1	4	6	10	0	22	9%
		着手率	100%	91%	94%	100%	58%	63%	66%	91%	0%	91%	81%	81%	81%	100%	84%	
三鷹駅 周辺	三鷹駅周 辺重点整備 地区	事業数	5	34	39	6	21	2	29	4	18	22	124	17	141	7	238	
		完了	1	9	10	0	9	1	10	1	10	11	48	4	52	1	84	35%
		実施中	4	25	29	5	4	0	9	3	5	8	43	9	52	6	104	44%
		検討中	0	0	0	0	2	0	2	0	0	0	9	1	10	0	12	5%
		未着手	0	0	0	1	6	1	8	0	3	3	24	3	27	0	38	16%
		着手率	100%	100%	100%	83%	62%	50%	66%	100%	83%	86%	73%	76%	74%	100%	79%	
武蔵境駅 周辺	武蔵境駅周 辺重点整備 地区	事業数	12	55	67	5	19	3	27	0	6	6	30	27	57	7	164	
		完了	6	12	18	0	8	1	9	0	3	3	15	11	26	1	57	35%
		実施中	5	37	42	5	3	1	9	0	3	3	9	14	23	6	83	51%
		検討中	0	3	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	4	2%
		未着手	1	3	4	0	8	1	9	0	0	0	5	2	7	0	20	12%
		着手率	92%	89%	90%	100%	58%	67%	67%	0%	100%	100%	80%	93%	86%	100%	85%	
合計	合計	事業数	42	146	188	17	64	13	94	15	24	39	211	87	298	21	640	
		完了	26	34	60	4	26	3	33	7	13	20	91	33	124	3	240	38%
		実施中	15	101	116	12	12	5	29	7	8	15	70	40	110	18	288	45%
		検討中	0	7	7	0	5	0	5	0	0	0	17	3	20	0	32	5%
		未着手	1	4	5	1	21	5	27	1	3	4	33	11	44	0	80	13%
		着手率	98%	92%	94%	94%	59%	62%	66%	93%	88%	90%	76%	84%	79%	100%	83%	

※ 着手率は、事業数に占める事業着手済み（完了、実施中）の割合です。
また、実施中の事業には継続的に実施している事業も含まれます。

2.2 主な完了事業

地区別の主な完了事業を示します。

【吉祥寺駅周辺地区】

種別	事業内容	写真
公共交通特定事業	<p>● 前期</p> <p>JR吉祥寺駅</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 南北自由通路の拡幅・整備 ○ 幅員の広い改札口の整備 (写真1) ○ 2階への改札の移動による段差の解消・動線の明瞭化 ○ エレベーターを必要とする方を優先する案内の掲示 ○ エレベーターの設置によるホームまでのバリアフリールートの整備 (写真2) ○ トイレの入口の段差の解消 ○ 視覚障害者誘導用ブロックの連続設置 <p>京王電鉄吉祥寺駅</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ホームドアの設置 (写真3) ○ 南北自由通路の拡幅・整備 ○ 出入口から改札・ホーム階へのエレベーター設置 	 <p>写真1</p>  <p>写真2</p>  <p>写真3</p>
	<p>■ 後期</p> <p>バス(関東バス)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 車内へのデジタルサイネージ表示機の設置 (多言語案内) (写真4) <p>バス(ムーバス)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 全車両のノンステップ車両への代替 ○ バス車内表示のバス停名称の多言語化 	 <p>写真4</p>

種別	事業内容	写真
道路特定事業	<p>● 前期</p> <p>市道第2号線末広通り： (写真5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 歩行帯と車道帯のカラー舗装による分離 ○ 電線類の地中化による歩行帯の幅員確保 ○ バリアフリーに適した舗装材の採用 ○ 街路灯の改修による照度アップ 	 <p>写真5</p>
	<p>■ 後期</p> <p>主要地方道7号線井ノ頭通り (図対番号③)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 視覚障害者誘導用ブロックの連続設置・勾配改善 (写真6) <p>市道第10号線井ノ頭公園 (図対番号⑬)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 歩行帯と車道帯のカラー舗装による分離 <p>市道第9号線 (図対番号⑭)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 排水蓋の細目又は鋳物蓋への交換 <p>私道(ヨドバシカメラ北側) (図対番号⑳)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 排水蓋の細目又は鋳物蓋への交換 	  <p>写真6</p>
都市公園特定事業	<p>● 前期</p> <p>井ノ頭公園</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 利用者の多い園路・入口の改修 ○ トイレ入口の段差の解消 (写真7) ○ 水のみ場の車いす対応への改修 (写真7) ○ 園全体の案内誘導計画の策定を検討 ○ 駐車場から園路までのバリアフリー経路の確保 ○ 移動等円滑化基準に適合した駐車場の新設 (西園) 	 <p>写真7</p>
	<p>■ 後期</p> <p>井ノ頭公園</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ バリアフリールート of ホームページへの掲載 (写真8) 	 <p>写真8</p>

種別	事業内容	写真
建築物特定事業	<p>● 前期</p> <p>東急百貨店吉祥寺店</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 屋上出入口の手動ドアを使いやすいものへ改修 ○ エレベーターの使いやすい運用 ○ 優先エレベーター内のアナウンス設置による利用者への優先エレベーターの周知 ○ 多機能トイレの増設（写真9） ○ 既存の多機能トイレへのユニバーサルシート、オストメイト対応設備の設置 ○ よりわかりやすいエレベーター・トイレ等の館内案内掲示 ○ 筆談用具の設置及び設置を示す案内の掲示 ○ 利用者の適切な対応について係員教育の推進 	 <p>写真9</p>
	<p>■ 後期</p> <p>武蔵野公会堂</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 駐車場のサインの改善（写真10） <p>吉祥寺図書館</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 多機能トイレの整備等バリアフリー化の推進（写真11） <p>吉祥寺東コミュニティセンター</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ スロープへの手すりの設置 <p>御殿山コミュニティセンター</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ エレベーターの設置（写真12） <p>F・Fビル(コピス吉祥寺)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ エレベーターの障害者も利用しやすい環境への改善 	 <p>写真10</p>  <p>写真11</p>  <p>写真12</p>

【三鷹駅周辺地区】

種別	事業内容	写真
公共交通特定事業	<p>● 前期</p> <p>三鷹駅北口</p> <p>○ 三鷹駅北口駅前総合案内板の設置※ (写真 1)</p> <p>※ バス事業者等の協力を得て、武蔵野市が設置</p>	 <p>写真 1</p>
	<p>■ 後期</p> <p>バス(関東バス)</p> <p>○ 車内へのデジタルサイネージ表示機の設置 (多言語案内)</p> <p>バス(ムーバス)</p> <p>○ 全車両のノンステップ車両への代替 (写真 2)</p> <p>○ バス車内表示のバス停名称の多言語化</p>	 <p>写真 2</p>
道路特定事業	<p>● 前期</p> <p>三鷹駅北口広場</p> <p>○ 横断歩道接続部の勾配の改善・平坦部の確保 (写真 3)</p> <p>○ 車両の乗り入れ部の勾配の改善・平坦部の確保</p> <p>○ 視覚障害者誘導用ブロックの連続設置の拡充</p> <p>○ わかりやすい案内サインの整備</p>	 <p>写真 3</p>
	<p>■ 後期</p> <p>市道第 55 号線 (図対番号⑪)</p> <p>○ 排水蓋の細目又は鋳物蓋への交換</p> <p>○ 視覚障害者誘導用ブロックの部分設置</p> <p>市道第 129 号線 (図対番号⑬)</p> <p>・ 第2号線三谷通り (図対番号⑭)</p> <p>○ 排水蓋の細目又は鋳物蓋への交換</p> <p>市道第 166 号線 (図対番号⑰)</p> <p>○ 歩道箇所の着色による注意喚起の実施 (写真 4)</p>	 <p>写真 4</p>

種別	事業内容	写真
都市公園特定事業	<p>● 前期</p> <p>武蔵野中央公園</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 西側出入口付近のインターロッキングブロック園路の改修 (写真5) ○ 自転車利用者へのマナー啓発 ○ イベント時における園路の幅員確保 	 <p>写真5</p>
	<p>■ 後期</p> <p>武蔵野中央公園</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新規拡張区域におけるバリアフリー園路の整備 (写真6) <p>むさしの市民公園</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 多目的トイレへのベビーベッドの設置 ○ 車いす対応の水飲み場への改修 <p>中央通り公園</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ベンチの設置 	 <p>写真6</p>

種別	事業内容	写真
建築物特定事業	<p>● 前期</p> <p>武蔵野市役所</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 東棟から西棟へ向かう通路において、スムーズな通行の確保 ○ エレベーターを必要とする方を優先する旨の表示 (写真7) ○ 1 階トイレを利用しやすい環境に改修 ○ 係員の駐輪整理による出入口やスロープの空間確保 ○ 正面及び北玄関のスロープのサイン表示の設置 ○ 利用状況を検討し、思いやり駐車場を新設 (兼障害者用駐車場) (写真8) 	 <p>写真7</p>  <p>写真8</p>
	<p>■ 後期</p> <p>中央市政センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 視覚障害者誘導用ブロックの設置 (写真9) ○ 誰でもトイレへのオストメイト対応設備の設置 <p>市民文化会館</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 車椅子席の増設及び移設 ○ 案内表示の改修（英語の併記・点字の設置等） <p>武蔵野総合体育館</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 洋式トイレ・ベビーチェアの増設 (写真10) ○ わかりやすい案内サインの設置 <p>緑町コミュニティセンター</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ エレベーターの設置 <p>武蔵野郵便局</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 多目的トイレの改修工事 <p>いなげや武蔵野西久保店</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 床面のアスファルト面の補修 ○ レイアウト変更による主要通路の有効幅員の確保 (写真11) 	 <p>写真9</p>  <p>写真10</p>  <p>写真11</p>

【武蔵境駅周辺地区】

種別	事業内容	写真
公共交通特定事業	<p>●前期</p> <p>JR武蔵境駅</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 筆談用具の設置を示す案内の掲示 ○ 工事期間中のバリアフリー経路を可能な限り単純化 ○ 工事期間中わかりやすく連続的な経路案内の設置（写真 1） ○ 工事期間中も含め視覚障害者誘導用ブロックの連続敷設 <p>西武鉄道武蔵境駅</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 筆談用具の設置を示す案内の掲示 ○ 駅係員のサービス介助士資格取得及びフォローアップ教育を定期的実施 	 <p>写真 1</p>
	<p>■後期</p> <p>バス(京王バス)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 行政及び関係事業者と連携した駅前への総合案内板の設置（写真 2） <p>バス(関東バス)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 車内へのデジタルサイネージ表示機の設置（多言語案内） <p>バス(ムーバス)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 全車両のノンステップ車両への代替 ○ バス車内表示のバス停名称の多言語化 	 <p>写真 2</p>
道路特定事業	<p>●前期</p> <p>市道第 73 号線境南通り他</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 東西路線の西側区間における歩道のセミフラット構造への改修による全面的なバリアフリー化（写真 3） <p>武蔵境駅北口広場</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 駅前広場の再整備に合わせて全面的なバリアフリー化を実施（スムーズ横断歩道の採用、視覚障害者誘導用ブロックの連続設置、バリアフリー対応型のインターロッキングブロックの採用、わかりやすい案内サインの整備等）（写真 4） 	 <p>写真 3</p>  <p>写真 4</p>
	<p>■後期</p> <p>武蔵境駅南口広場（図対番号⑥）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 全面的なバリアフリー化（写真 5） <p>市道第 63 号線（図対番号⑨）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ JIS 規格適合の視覚障害者誘導用ブロックへの改修 <p>市道第 80 号線山桃通り（図対番号⑪）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 全面的なバリアフリー化 <p>市道第 236 号線（図対番号⑰）・私道（図対番号⑱）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 排水蓋の細目又は鋳物蓋への交換 	 <p>写真 5</p>

種別	事業内容	写真
都市公園特定事業	<p>● 前期</p> <p>境本公園</p> <p>○ 水のみ場を車いす対応に改修 (写真 6)</p>	 <p>写真 6</p>
	<p>■ 後期</p> <p>境南ふれあい広場公園</p> <p>○ 視覚障害者誘導用ブロックの設置 (写真 7) (駅前広場～武蔵野プレイス北側玄関)</p>	 <p>写真 7</p>
建築物特定事業	<p>● 前期</p> <p>TAIRAYA武蔵境店</p> <p>○ 視覚障害者誘導用ブロックの敷設 ○ 主要な通路の有効幅員の確保 ○ 多目的トイレの設置 (写真 8) ○ 一般トイレへのベビーチェア・ベビーシートの設置 ○ 施設内のわかりやすい案内表示の設置 ○ 身障者用駐車施設の設置 (写真 9) ○ 利用者への適切な対応に関する係員の教育の推進</p> <p>武蔵野プレイス</p> <p>○ 施設のバリアフリー整備 ○ 音声読み上げ機、拡大図書機の設置 ○ 対面朗読室の1階への設置 ○ 筆談用具の設置や設置を示す案内の提示</p>	 <p>写真 8</p>  <p>写真 9</p>
	<p>■ 後期</p> <p>武蔵境市政センター ※施設移転に伴い、民間施設内に設置</p> <p>○ 視覚障害者誘導用ブロックの設置 ○ ベビーベッド及びオストメイト対応設備の設置 (写真 10) ○ 授乳室の設置</p> <p>イトーヨーカ堂武蔵境店</p> <p>○ 出入口のスペース及び通路幅の確保 ○ 店内の視覚障害者誘導用ブロックの修繕 (写真 11)</p> <p>武蔵野赤十字病院</p> <p>○ 多目的トイレへのオストメイト対応の表示の追加 ○ 総合案内への筆談用具の設置</p>	 <p>写真 10</p>  <p>写真 11</p>

2.3 未着手事業とその要因

特定事業計画に位置付けたものの、未着手となった事業について以下に示します。

【吉祥寺駅周辺地区】

- ：特定事業計画で展望期まで計画期間の事業
●：特定事業計画で前期・後期まで計画期間の事業
□：基本構想にはあるが特定事業計画にない事業

事業種別	事業内容
公共交通 特定事業	バス(小田急バス) □ 正着が困難なバス停について、改良に向けて道路管理者と連携し検討します。
道路 特定事業	<p>市道第 151 号線 (図対番号⑩) ○ 段差解消などバリアフリー化を実施します。 ○ L 形側溝の狭小化を実施します。</p> <p>市道第 190 号線 (図対番号⑫) ○ 道路の拡幅に合わせてバリアフリー化を実施します。</p> <p>市道第 151 号線 (図対番号⑯) ○ 道路の拡幅に合わせてバリアフリー化を実施します(北側区間)。</p> <p>市道第 298 号線 (図対番号⑰) ○ 道路の拡幅に合わせてバリアフリー化を実施します</p> <p>市道第 99 号線 (図対番号⑱) ○ 沿道の建替えに合わせて、狭あい協議により道路の幅員を確保します。 ○ L 形側溝の狭小化等を実施します。</p> <p>私道(ベルロード) (図対番号㉓) ○ バリアフリーに適した舗装材を採用します。</p> <p>私道(ヨドバシカメラ北側) (図対番号㉔) ○ バリアフリーに適した舗装材を採用します。 ○ L 形側溝の狭小化を実施します。</p>
都市公園 特定事業	<p>井の頭公園 ● 関係者間で連携し、出入口のバリアフリー化を検討します(パープル通り)。</p>
建築物 特定事業	<p>吉祥寺市政センター ● オストメイト対応設備の設置を検討します。 ● 施設建替時などの時期にあわせて授乳室の設置を検討します。</p> <p>吉祥寺図書館 ● 階段の手すりの改修を検討します。 ● 点字案内の設置を検討します。</p> <p>東急百貨店吉祥寺店 ● 『思いやりエレベーター』の表記更新 ● 優先エレベーターの『思いやりエレベーター』の表記更新 ● パーキングビルの優先駐車スペースへの誘導表記設置</p> <p>ヨドバシカメラマルチメディア吉祥寺 □ 商品が取りやすいレイアウトに変更します。</p> <p>西友吉祥寺店 ○ 段差や勾配の解消、視覚障害者誘導用ブロックの設置を検討します。 ○ バス通り側軽食コーナーの出入口において、自動ドアの設置を検討します。</p>

- ：特定事業計画で展望期まで計画期間の事業
 ●：特定事業計画で前期・後期まで計画期間の事業
 □：基本構想にはあるが特定事業計画にない事業

【三鷹駅周辺地区】

事業種別	事業内容
道路 特定事業	<p>主要地方道7号線井ノ頭通り (図対番号③) □ 道路全体の改修の際に歩道勾配を改善します。</p> <p>市道第 17 号線中央大通り (図対番号⑦) ○ 全面的なバリアフリー化を実施します。</p> <p>市道第 16 号線文化会館通り (図対番号⑨) ● 全面的なバリアフリー化を実施します(総合体育館～水道部間)。</p> <p>市道第 129 号線 (図対番号⑬) ○ 道路の拡幅にあわせて全面的なバリアフリー化を実施します。</p> <p>市道第2号線三谷通り (図対番号⑭) ○ バリアフリーに適した舗装材を採用します。</p> <p>市道第 27 号線 (図対番号⑮) ○ バリアフリーに適した舗装材を採用します。</p> <p>市道第 177 号線 (図対番号⑱) ● バリアフリーに適した舗装材を採用します。</p> <p>私道 (図対番号⑳) ○ L 形側溝の狭小化等を実施します。</p>
都市公園 特定事業	<p>伏見通り公園</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 車道と接する出入口に視覚障害者誘導用ブロックを設置します。 ● 階段のある出入口に手すりを設置します。 ● 車いす対応の水飲み場の設置を検討します。
建築物 特定事業	<p>中央市政センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 敷地内通路階段部における手摺りの設置を検討します。 ● 施設建替時などの時期にあわせて授乳室の設置を検討します。 <p>高齢者総合センター</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 施設の改修時に階段の手すりの連続設置を検討します。 <p>障害者福祉センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ● オストメイト対応設備の設置を検討します。 ● 障害者用駐車場の確保を検討します。 ○ なごみの家玄関前のスロープに手すりの設置を検討します。 <p>武蔵野シルバー人材センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 展示室及び事務所の入口における段差の解消を検討します。 ○ 舗装を改修することで平坦性の確保を検討します。 ○ オストメイト対応設備の設備を検討します。 <p>中央図書館</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 3階のホールとトイレをつなぐスロープに手すりの設置を検討します。 ● 2階から3階へ上がる階段に手すりの設置を検討します。 ● 車いすの使用者の視界を確保するため、エレベーター内の鏡の改修を検討します。 ● ベビーチェア、オストメイト対応設備の設置を検討します。

- ：特定事業計画で展望期まで計画期間の事業
 ●：特定事業計画で前期・後期まで計画期間の事業
 □：基本構想にはあるが特定事業計画にない事業

事業種別	事業内容
建築物 特定事業	<p>市民文化会館</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 西側歩道における視覚障害者誘導用ブロックの設置を検討します。 ● 西側出入口における自動ドアの設置を検討します。 ● 滑りやすい床について、改善方法を検討します。 ● 出入口及び受付からエレベーターまでの経路への視覚障害者誘導用ブロックを設置します。 ● ホール座席からトイレまでの経路の段差解消について検討します。 <p>武蔵野総合体育館</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ プールの出入口に自動ドアを設置します。 ● 1 階卓球場のスロープに手すりを設置します。 ● エレベーターを必要とする方を優先する旨を掲示します。 ● 「障害者用」ロッカーの鍵を利用者が分かりやすいように色を変更します。 <p>武蔵野郵便局</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 管理方法も含めて、利用しやすい駐車場への更新を検討します。 <p>いなげや武蔵野西久保店</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 北側駐輪場の段差や凹凸の修繕を検討します。 ● 駐車場北口の出入口の拡幅及び段差の解消を検討します。 □ 筆談用具の設置や設置を示す案内の掲示を検討します。

- ：特定事業計画で展望期まで計画期間の事業
 ●：特定事業計画で前期・後期まで計画期間の事業
 □：基本構想にはあるが特定事業計画にない事業

【武蔵境駅周辺地区】

事業種別	事業内容
公共交通 特定事業	<p>武蔵境駅(西武鉄道) ○ホームドアの設置等、危険防止に向けた検討をします。</p> <p>バス(小田急バス) □正着が困難なバス停について、改良に向けて道路管理者と連携し検討します。 ●車内における案内表示の充実を検討します。 ●行政及び関係事業者と連携し、駅前にわかりやすい総合案内板を設置します。</p>
道路 特定事業	<p>市道第 73 号線境南通りほか (図対番号⑩) ●段差解消などバリアフリー化を実施します(南北路線)。 ●視覚障害者誘導用ブロックの設置を推進します(南北路線)。</p> <p>市道第 302 号線 境南コミュニティ通り (図対番号⑭) ●段差解消などバリアフリー化を実施します。 ●視覚障害者誘導用ブロックの設置を推進します。</p> <p>市道第 74 号線 (図対番号⑮) ○道路の拡幅に合わせて、全面的なバリアフリー化を実施します</p> <p>市道第 236 号線 (図対番号⑰) ○L 形側溝の狭小化等を実施します。</p> <p>市道第 40 号線 (図対番号⑱) ○視覚障害者誘導用ブロックの輝度比を改善します。 ○バリアフリーに適した舗装材を採用します。</p> <p>私道 (図対番号⑲) ○L 形側溝の狭小化等を実施します。</p>
建築物 特定事業	<p>市民会館 ○通路(廊下)建物の改修の際に、居室出入口の拡幅を検討します。 ○オストメイト対応設備の設置を検討します。 ○障害者駐車施設の設置を検討いたします。</p> <p>境南コミュニティセンター ●3階通路について、スロープ位置の改善や手すりの設置等を検討します。 ●手話のできる窓口担当者がある旨の掲示を検討します。</p> <p>武蔵野赤十字病院 ●駐車場から構内へのバリアフリーの検討 ●車椅子用の駐車場を7台分からの増台を検討</p>

2.4 事業実施状況から見た課題

(1) 事業の実施状況とりまとめ

事業の対象	実施状況	摘 要
特定旅客施設	ほぼ着手済み	一定水準のバリアフリー化は達成 ホームドアの設置などの課題が残る
特定車両	ほぼ着手済み	低床化が進む（一部ワンステップバスが残る路線あり） 正着性の確保や案内の充実などの課題が残る
道路	一層の事業推進が必要	特定事業着手率は 66%と他に比べても低い 特に市道での着手率が低い
都市公園	ほぼ着手済み	ベンチや車いす対応水飲みの設置、園路整備などが進む 井の頭公園の吉祥寺側からのアクセスの課題が残る
建築物	残る未着手事業の対応	事業数が最も多いが 78%と比較的高い着手率である 民間施設よりも公共施設における着手率が低い
信号機等	着手済み（継続的 取組みが必要）	音響式信号機やエスコートゾーンの整備が進む 道路整備と併せた継続的な取組みが必要
その他	残る未着手事業の 対応	全 14 事業のうち 11 事業が着手済み 啓発冊子など紙媒体における取組みが残る

(2) 事業実施状況から見た課題

①特定旅客施設

- ・吉祥寺駅改良計画において駅ビル立替工事や自由通路拡幅等の整備が実施され幅広改札や段差解消、動線の明確化等が実施された。京王電鉄吉祥寺駅では市内で唯一ホームドアが設置された。武蔵境駅においては連続立体交差化事業により駅舎工事が行われ、新設駅として移動等円滑化基準等に基づく整備が実施された。
- ・新しく整備された施設等における利用者視点の評価や、評価に基づく改善・展開などを進めていく必要がある。
- ・ホームドア等の整備が進んでおらず計画的な推進が必要である。

②特定車両(バス車両)

- ・一部ワンステップバスの路線があり、ノンステップバスの導入推進が必要である。
- ・バス停留所における上屋設置や正着性向上など関係者等と連携した取組み継続が必要である。
- ・バス利用に関わる案内の高度化（バスロケーションシステム、多言語化など）の取組み継続が必要である。
- ・バリアフリーに係る乗務員教育の継続的な取組みが必要である。（正着・ニーリング・車いす対応・接遇・アナウンスなど）

③道路

- 道路拡幅や沿道建替え等の機会を捉えて整備推進を図る予定の事業があり、継続して長期的視点から取組みを推進していく必要がある。
- 全面的な舗装改修やし型側溝の狭小化等、全線的に取組む事業が実施されておらず、更新時期等に併せて一体的に整備推進を図っていく必要がある。
- 市道における事業着手率が低い状況にあり、現在の生活関連経路についても引き続き経路設定を行い継続的な事業実施を位置づける必要がある。

④都市公園

- 生活関連経路沿いにおけるベンチ設置等、道路と連携した整備が進んでおり、継続的な取組み推進が必要である。
- 井の頭公園については、吉祥寺駅側から高低差があり、出入口の段差解消が課題となっている。スロープ整備などについては、引き続き様々な側面より慎重な検討が必要である。

⑤建築物

- 吉祥寺駅周辺では商業施設のリニューアルなどが進み、整備水準の向上が図られたことから、利用者視点の評価や、評価に基づく改善・展開などを進めていく必要がある。
- コミュニティセンターの事業等は進捗しているが、その他の公共施設における整備が遅れており、計画的な事業推進が必要である。

⑥信号機等

- 音響式信号機やエスコートゾーンの整備は進んでいるが、今後も継続して事業推進が図られるように関係者との連携が必要である。
- 自転車の利用マナー等に係る広報・啓発活動の一層の推進が必要である。

⑦その他事業

- 現行基本構想における「その他事業」については、全14事業のうち11事業が着手済み。
- 未着手の事業は「啓発冊子の配布・充実」「バリアフリーマップの改訂」「まち案内所の設置」が残っており継続的な取組みが必要である。
- 心のバリアフリーに関する取組みは継続中のものも多く、取組みの評価を行い、より効果的な取組み推進を図っていく必要がある。

3

各主体による評価

3.1 バリアフリーネットワーク会議

基本構想の評価の実施に際し、特定事業の進捗状況を関係者で共有するとともに、利用者との意見交換の場を設けることを目的にネットワーク会議を開催しました。

実施概要を以下に示します。

表 3-1 バリアフリーネットワーク会議実施概要

名 称	令和元年度 武蔵野市バリアフリーネットワーク会議
日 時	令和元年 12 月 11 日（水曜日）午後2時 から 午後 4 時 30 分 まで
場 所	武蔵野スイングホール スカイルーム
出 席 者	佐藤会長ほか 18 名
議 題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 武蔵野市バリアフリー基本構想に基づく後期特定事業計画の進捗について ・ 主要な特定事業実施箇所の現地確認 確認箇所：武蔵境駅南口駅前広場 ・ 意見交換：令和 2 年度に目標年次を迎える基本構想の評価について
実施状況	 

意見交換の要点を以下に示します。

- バリアフリー化が進展したことに対し一定の評価は得られているが、乗車拒否の問題など新たな課題が確認された。
- 建築物等でバリアフリー化が進んできているが、エレベーターのサイズやトイレにおけるコントラストの確保など、整備後に課題が確認されるものがあり、事業段階における当事者参加など事前的な対応の必要性について意見が出された。
- 心のバリアフリーについては社会モデルを基本とした一層の推進が必要であることが確認された。
- 事前的な情報提供の必要性や、LGBT や知的・発達障害、外国人など対象を広げたバリアフリー化推進の必要性が確認された。

[主な意見]

項 目	意 見
バス、 タクシー について	<ul style="list-style-type: none"> ● 武蔵境、南町地域から市役所・保健センターへのバスがなく困る。 ● ツインベビーカーでのバスへの乗車拒否の問題は意見として多く出ている。 ● UD タクシーでは乗車拒否問題が問題となっている。
建築物 について	<ul style="list-style-type: none"> ● エレベーター等の整備が進んでいるが、双子のベビーカーではサイズ的に利用できないことがある。 ● エレベーターの運用方法が変わった（荷物専用に変更）ことで利用できなくなった商業施設がある。 ● トイレで便器と床・壁のコントラストが確保できていないと、便器の位置がわからない箇所がある。 ● コミセンは今後基本構想を考える際に、駅周辺以外でも高齢者・障害者が必要とする施設として重点的に検討すべき。
道路・信号機 について	<ul style="list-style-type: none"> ● 駅前広場のタクシー乗降場にスロープが設置されているが、UDタクシーの乗車方法によっては運用方法が異なり利用できない場合がある。 ● エスコートゾーンの整備は進んでいるが、武蔵境駅周辺では設置されていない箇所もあり、さらなる設置を進めてほしい。 ● 総合案内版の音声ボタンの破損など、維持管理にも留意が必要である。 ● 武蔵境駅南口駅前広場では視覚障害者誘導用ブロックの側帯の設置により視認性が向上している。 ● 視覚障害者と車椅子使用者の求める横断歩道部の段差のあり方の違いについて、現在の市の方針継続の必要性について再確認が必要である。
公園について	<ul style="list-style-type: none"> ● 井の頭公園をはじめ公園が多くあるため、トイレの内部構造やボタンが同じ配置になるように対応してほしい。
心の バリアフリー ・人的対応 について	<ul style="list-style-type: none"> ● 社会モデルの考え方の理解促進が必要であり、その理解が心のバリアフリーにつながる。最近では権利モデルという考え方も出ている。 ● 子育てとひとくくりにしてもそれぞれで感じるものが違うため、ハード面の改善も必要だが、心のバリアフリーという面でもいろんな人に協力してほしい。 ● 視覚障害者誘導用ブロックによるハードの対応と人による支援の関係をどう考えるか。人的対応が不十分であるのなら、研修の充実などが必要になる。
情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ● ICT、情報技術の活用による情報提供の充実が今後考えられるが、利用できないという人への対応が課題となる。 ● バリアフリー情報など事前にホームページなどで情報提供できるように、力を入れて検討してほしい。
当事者参加	<ul style="list-style-type: none"> ● 当事者参加が一層進んできており、市の関連施設でも、どのようなプロジェクトで当事者参加を実践するのかの方針が求められる。
対象者	<ul style="list-style-type: none"> ● 外国人が武蔵野市を訪れたときの訪れやすさの概念が必要になってくる。多言語表示対応の言語や使い勝手は適切かなどの視点が必要である。 ● パニックを起こした人が一旦落ち着くためのスペースも考える必要がある。 ● LGBT や性に関する悩みも聞くようになっておりトイレの改善は今後の課題と思われる。
その他、 全体に関する ことなど	<ul style="list-style-type: none"> ● 民地内であっても道路に接する箇所に喫煙所があり煙を浴びることで負担に感じる。 ● 自転車利用者との接触の危険を感じることもある。 ● 都内でも先駆的に取組みを進めていることは高く評価できる。特に当事者参加が進んできている。

3.2 関係団体アンケートによる利用者意見の収集

基本構想の評価の実施に際し、利用者からの意見を収集することを目的に関係団体アンケートを行いました。実施概要を以下に示します。

(1) 調査の方法

団体配布及び主要施設に調査票を設置、郵送回収

(2) 調査の時期

令和元年11月～12月

(配布数：1,582票 回収数：490票 回収率：31%)

(3) 調査の対象

バリアフリー法の対象者である、高齢者・障害者等を基本に以下の対象者を設定します。

また、調査対象施設については、現在の生活関連施設を基本に、金融機関や多様な利用者の利用が考えられる大学などを新たに追加しました。

表 調査対象

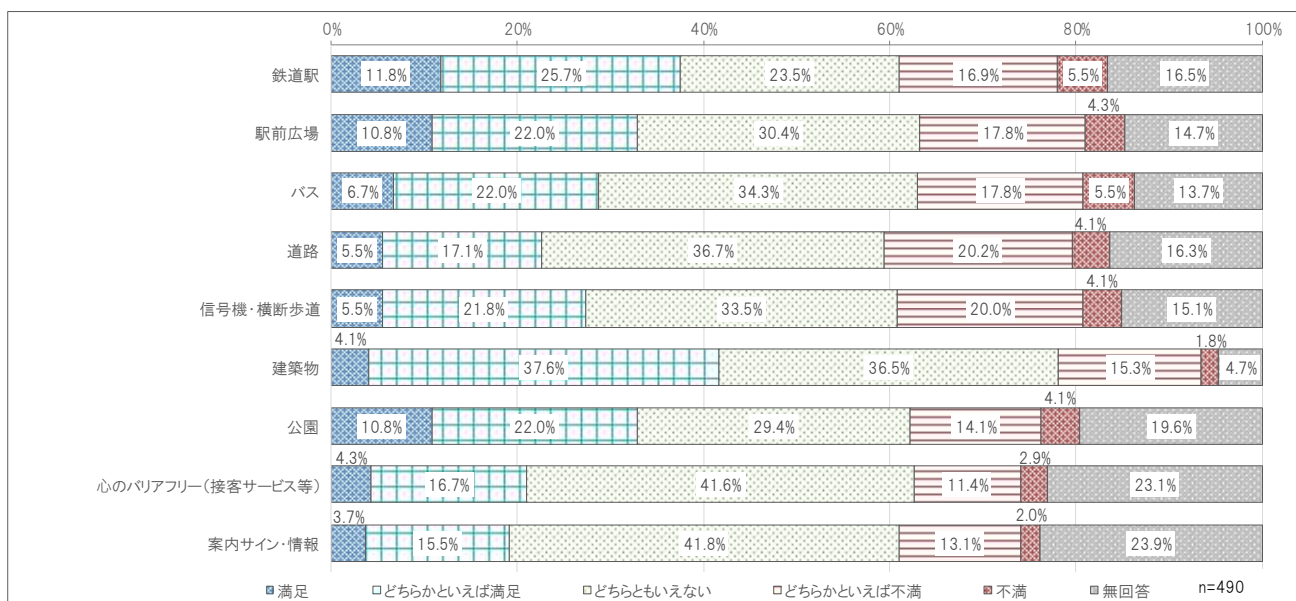
項目	内容
調査対象者	高齢者・障害者 妊産婦や子育て世代 その他、広く一般的な施設利用者
調査対象施設	<建築物> 公共施設・福祉施設・医療施設・商業施設・金融機関・ 宿泊施設・大学 等 <その他> 鉄道駅・道路・都市公園・路外駐車場

(4) 調査の内容

項目	掲載趣旨
利用する施設と使いやすさ	よく利用する施設とバリアフリー上の使いやすさの把握
現行基本構想の評価	現在のバリアフリー（ハード・ソフト）に対する満足度等の把握
自由意見	市内のバリアフリー（ハード・ソフト）に関する課題の抽出
基本属性	年齢、性別、住所、障害種別、補助具、外出頻度、 移動手段による傾向の分析

(5) 調査結果

※本結果は、主に現行基本構想の評価に係る事項についてまとめている。



武蔵野市内のバリアフリー状況の満足度（2019 年度アンケート調査結果より）

<鉄道>

- 吉祥寺駅、武蔵境駅の大規模改修が行われ、鉄道駅全体として満足傾向(37.6%)が不満傾向(22.4%)の割合より高い結果となった。
- 駅のエレベーター・エスカレーターなどの上下移動設備が完備されたことに一定の評価がある。
- エレベーターが狭い・少ない・利用できない、ホームが狭くホームドアがないなどの意見がある。

○ 吉祥寺駅

- ・ JR 吉祥寺駅について「使いやすい」と回答した割合は 46.5%と他に比べても低い結果となった。（京王吉祥寺駅は回答数が少ないため評価から除外）
- ・ エレベーター・エスカレーターが完備されていることに對し良い評価があった。
- ・ エレベーターの大きさへの不満や利用者多数で利用できないとの意見が多く寄せられた。ホームが狭く、ホームドアの設置を希望する意見もある。
- ・ その他、駅の構造が複雑で、動線が混雑・錯綜し利用しづらいとの意見がある。

○ 三鷹駅

- ・ JR 三鷹駅について「使いやすい」と回答した割合は 54.3%と JR 武蔵境駅に次いで高い結果となった。
- ・ エレベーター・エスカレーターが完備されていること、優先エレベーターや優先改札の設定、改札内授乳室の設置に對し良い評価があった。
- ・ 自由通路のエレベーターの位置が奥まっており、アクセスが悪く暗いなどの意見があった。ホームのエレベーターも狭く、場所が分かりにくいなどの意見があった。ホームドアの設置を希望する意見もある。

○ 武蔵境駅

- ・ JR 武蔵境駅について「使いやすい」と回答した割合は 59.0%と最も高い結果となった。（西武武蔵境駅は回答数が少ないため評価から除外）
- ・ エレベーター・エスカレーターの完備や設置位置、ホーム上の待合所に對し良い評価があった。
- ・ ホームが狭く、ホームドアの設置を希望する意見がある。混雑時におけるホームの狭さやエレベーターが利用できないなどの意見も見られる。

<駅前広場>

- 駅前広場については、武蔵境駅南口の駅前広場整備等が行われ、満足傾向(32.9%)が不満傾向(22.0%)の割合より高い結果となった。
- 駅前広場空間の広さや、停留所における発車時間の表示、停留所の案内表示のわかりやすさなどが評価されている。
- 駅前広場内のバス混雑に伴い、バス車両が正着せずバス・歩道双方に段差が発生すること、障害者用の乗降場の利用しにくさについて意見がある。

- ・駅前広場については、歩行空間が広がったことに対する評価や、バス停留所の位置が分かりやすくなったこと、停留所における発車時間の情報提供などについて良い評価があった。
- ・駅前広場では特にバス車両が混雑し、降車場に正着できないことから、広場内の車道にいったん降りて歩道もしくはバスへの乗降が必要となり、段差への負担感があるという意見がある。
- ・三鷹駅北口では障害者用の乗降場が設置されているが利用しづらいとの意見がある。

<バス・タクシー>

- バスについては、満足傾向(28.8%)が不満傾向(23.3%)の割合より高い結果となったが、どちらともいえない(34.3%)が最も高い。
- ノンステップバスの増加や、バス運転手の声掛け、乗客の声掛けなどが増えていることを評価している。
- 一方で、ノンステップバスでない車両がまだあること、バスが歩道に正着していないこと、運転手の対応は人によって異なること、困っているときにもう一声が欲しいとの意見も見られる。
- ムーバスについては、車内が狭い上に混雑していることが多いことから利用を回避しているとの意見がある。運転手が親切であるとの意見が多くある。
- タクシーについては、運転手の筆談対応など理解が進むも人によって対応が異なるとの意見がある。UD タクシーの普及により乗りやすくなったとの評価がある。

- ・ノンステップバスの導入について、導入が進んでいることが評価されている一方で、まだ、一部導入されていないことに対する意見が見られた。
- ・運転手の対応については、人によって対応が異なり、良い評価がある一方で、不満の声も見られる。また、ベビーカーを乗せる際に他の乗客に一声かけてほしいなどの要望もある。
- ・バスが歩道に正着していないことで、いったん車道に降りてから乗車せざるを得ない状況や車いすでの乗車が難しいことなどの意見があった。
- ・同乗する乗客の声掛けも増えてきている一方、優先席での若い人の利用など、乗車マナーに係る意見も見られた。
- ・ムーバスについては、車内が狭く車いすやベビーカーでは利用が難しいこと、また、混雑していることが多く利用が困難なことから利用自体を回避しているとの意見がある。総じて運転手が親切であるとの意見が多くある。
- ・タクシーについては、運転手の筆談対応や障害者手帳の提示などに対し以前よりも理解が進んだとの評価する意見もあるが、人によって対応が異なるとの意見がある。
- ・スライド式のドアの車両が乗り降りしやすいとの意見があり、UD タクシーの普及が一定の評価を得ている。

<道路>

- 道路については、満足傾向(22.7%)よりも不満傾向(24.3%)の割合が高い結果となったがどちらともいえない(36.7%)が最も高い。
- 歩車分離や視覚障害者誘導用ブロックの設置などに対し一定の評価がある。
- 歩道の狭さや歩道舗装の凸凹、歩車道境界の段差、歩道勾配、自転車の利用マナーについての意見が多い。

- ・ 道路については、歩車分離された歩行空間が確保されていることや視覚障害者誘導用ブロックの整備推進に対し、意見としては少ないが評価する意見を確認できた。
- ・ 従来よりある歩道の構造に関する意見として、歩道幅員・舗装・段差・勾配に関しての意見はなお多くある。
- ・ 歩道を利用する自転車の利用について危険を感じるなどの意見も多い。

<信号機・横断歩道>

- 信号機・横断歩道については、満足傾向(27.3%)が不満傾向(24.1%)の割合より高い結果となったが、どちらともいえない(33.5%)が最も高い。
- 押しボタンがスイッチ式になったことで利用しやすくなったとの評価する意見があった。
- 音響式信号機のさらなる整備と、音声案内内容の統一が必要などの意見や、歩行者用青時間が短いこと、横断歩道の必要性に関する意見などがある。

- ・ 音響式信号機等の整備が進み、タッチ式スイッチの普及などが評価される一方、より一層の整備推進を望む声が強くなってきている。音声内容が異なる箇所もあり、統一が必要との意見も見られる。
- ・ 高齢者だけでなく一般の方からも、歩行者用青時間が短いとの意見は多く見られる。
- ・ 動線上必要性があると感じている箇所で、横断歩道がないために不便であるということから、横断歩道の設置を望む意見もある。

<建築物>

- 建築物については、満足傾向(41.6%)が不満傾向(17.1%)の割合よりも高い結果となった。
- 新規に整備された建築物では一定のバリアフリー化が進んだことによる評価が得られているが、段差解消が進んでいない施設も多く指摘されている。
- 基本的に現行基本構想の重点整備地区内にアンケートで利用が多い施設が集中している。
- 現行基本構想で対象施設とした施設以外で、銀行、大学、ホテルなどで一定の利用が確認された。
- 現行重点整備地区外で利用が多い施設(コミュニティセンター(地区外の総計)、小金井公園)がある。

- ・ 公共施設では、現行基本構想の生活関連施設である武蔵野市役所やコミュニティセンター、武蔵野プレイス、武蔵野市民文化会館、総合体育館などの利用が多い。生活関連施設以外で特に利用の多い他の施設はなかった。
- ・ 福祉施設では、現行基本構想の生活関連施設である高齢者総合センターや障害者福祉センターの利用が多いが、生活関連施設に設定されていない施設で0123はらっぱ(「使いやすい」との評価が多い)、市民社会福祉協議会(段差などの指摘あり)の利用も多い。
- ・ 医療施設では、現行基本構想の生活関連施設である武蔵野赤十字病院、武蔵野陽和会病院の利用が多い。生活関連施設以外で特に利用の多い他の施設はなかった。
- ・ 商業施設・駐車場では、現行基本構想の生活関連施設であるイトーヨーカ堂武蔵境店、アトレ吉祥寺、東急百貨店吉祥寺店、ヨドバシカメラマルチメディア吉祥寺の利用が多い。生活関連施設以外で特に利用の多い他の施設はなかった。
- ・ 公園では、現行基本構想の生活関連施設である井の頭公園、武蔵野中央公園、生活関連施設に設定されていない公園では、小金井公園の利用が多い。
- ・ 現行基本構想の生活関連施設に設定されていない銀行では、三菱UFJ銀行吉祥寺支店、三菱UFJ銀行武蔵境支店が最も多いが、銀行は総じて地域の中で利用されている。
- ・ 現行基本構想の生活関連施設に設定されていない大学では、重点整備地区外になるが、成蹊大学、亜細亜大学の利用が比較的多い。
- ・ 現行基本構想の生活関連施設に設定されていないホテルでは、吉祥寺第一ホテルの利用が確認された(回答者の5%程度)。

<公園>

- 公園については、満足傾向(32.9%)が不満傾向(18.2%)の割合よりも高い結果となった。
- 公園はトイレやベンチ等の設置について一定の評価があるが、車いす等の通行時の園路の不便さや、自転車利用による接触の危険性などが指摘されている。
- 回答が最も多い井の頭公園では吉祥寺駅側からの高低差についての多くの意見があった。

- ・ 公園の利用状況では、井の頭公園、武蔵野中央公園、小金井公園の利用が多い。
- ・ 公園内の車いす使用者用を含むトイレやベンチ等の存在に対する肯定的な意見がある。
- ・ 園路について砂利道や石畳、段差があり車いすやベビーカーの利用に支障が来ている。
- ・ 運用面では、自転車が公園内を通行し接触の危険性などが指摘されている。
- ・ 回答が最も多い井の頭公園については、駅からのアクセスについて階段や坂道が急であること、また、園内も橋などの利用が難しい、遠回りを余儀なくされるなどの意見が確認された。

<心のバリアフリー>

- 心のバリアフリーについては、満足傾向(21.0%)が不満傾向(14.3%)の割合よりも高い結果となったが、どちらともいえない(41.6%)が最も高い。
- 交流機会の創出や声掛け等に対する一定の評価があり、学校での教育・交流や、地域での交流イベントの開催、障害当事者を含めた防災訓練等を望む声が多い。

- ・ 市民との交流の機会ができたことや、声掛けなどを実感しており感謝する気持ちなど肯定的な意見を確認できた。
- ・ 心のバリアフリーとして実践した方が良いものとして最も多いのが学校（子ども）での教育・交流（インクルーシブ教育、授業への取り入れ等）であり、次いで地域での交流イベントの開催（望む声は多くとも器楽に参加できる機会がないとの意見あり）、次いで障害当事者を含めた防災訓練等の実施である。

<案内サイン・情報>

- 案内サイン・情報については、満足傾向(19.2%)が不満傾向(15.1%)の割合よりも高い結果となったが、どちらともいえない(41.8%)が最も高い。
- アプリなどを活用した情報提供の充実について意見がある。

- ・ 自由意見の中でバリアフリー情報の提供について、アプリなどを活用して充実していく必要性が意見としてある。

3.2 関係団体ヒアリングによる利用者意見の収集

基本構想の評価の実施に際し、利用者からの意見を収集することを目的に関係団体にヒアリングを行いました。実施概要を以下に示します。

(1) 調査の方法

直接聞き取り式のヒアリング

(2) 調査の時期

令和元年 11 月下旬～12 月中旬

(3) 調査の対象

表 調査対象

属 性		団体名	実施日	参加 人数
高齢者団体		老人クラブ連合会	11/29（金）	4 人
障害者 団体	肢体不自由	障害者福祉協会	12/5（木）	4 人
		肢体不自由者児父母の会	12/2（月）	6 人
	視覚	視覚障害者福祉協会	11/26（火）	7 人
	聴覚・言語	聴覚障害者協会	11/26（火）	4 人
	知的	地域生活支援センターびーと	11/29（金）	6 人
		山彦の会（心身障害児・者をもつ親の会）	12/3（火）	6 人
	精神	ライフサポート MEW(みう)	12/5（木）	6 人
	発達	地域活動支援センターコット	12/13（金）	3 人
	全般（当事者）	地域自立支援協議会障害当事者部会	12/13（金）	8 人
子育て団体		むさしの双子サークル チェリーズ	11/29（金）	6 人
		サニーママ武蔵野		6 人
合計（延べ）				66 人

(4) 調査の内容

表 ヒアリング調査項目

項 目	掲載趣旨
利用する施設と使いやすさ	よく利用する施設とバリアフリー上の使いやすさの把握
現行基本構想の評価	現在のバリアフリー（ハード・ソフト）に対する満足度等の把握
自由意見	市内のバリアフリー（ハード・ソフト）に関する課題の抽出

(5) 調査結果

※本結果は、主に現行基本構想の評価に係る事項についてまとめている。

<鉄道>

- 駅の改修や車両の代替が進み、バリアフリー化が進んだことに対し評価されている。
- エレベーターが狭い・少ない・利用できないことへの不満や、ホームが狭くホームドアがないことへの不安が確認された。
- 有人改札の対応や無人改札口側が切符対応になっていないことの不便点が挙げられた。
- 公共交通など人混みでパニックになった際に落ち着けるスペースを望む声があった。
- 駅の入場規制に対して不便や不安などの意見がある。

- ・ 車両内の車いすスペースができたことで、車いす・ベビーカー利用者だけでなく、発達障害の子も利用しやすくなった（大声を出してしまうことがあるため）。
- ・ 吉祥寺駅のエレベーターがキラリナと共有のため利用者が多く、混雑で利用できないとの意見は多数ある。
- ・ 視覚障害者の転落事故という点だけでなく、狭いホームでの車いすでの長距離の移動の不安感や精神障害者の不慮の事故等からもホームドアの設置が必要との意見が確認された。
- ・ 有人窓口の利用に際して押しボタン式の自動ドアの不便さや駅員が不在の場合があること、無人改札口側が切符対応になっていないことの不便さが挙げられた。
- ・ 遅延等に伴い駅への入場規制が行われるが、コミュニケーションが困難な人にとっては並び方がわからず、状況が理解できずに不安になる。

<駅前広場>

- 武蔵境駅の駅前広場について利用しやすいと評価されている。
- 吉祥寺駅に障害者用乗降場が未設置であること、三鷹駅北口の障害者用乗降場が利用しにくいことが意見として挙げられた。
- バス車両が正着せずバス・歩道双方に段差が発生して危険であるとの意見があった。
- 障害者が駅前広場でUDタクシーを利用する際の運用方法について意見があった。

- ・ 武蔵境駅駅前広場は再整備に伴い正着性が高まり、視覚障害者誘導用ブロックの側帯も見やすく利用しやすいとの評価が得られた。
- ・ 吉祥寺駅駅前広場には、障害者用乗降場がないため送迎などが難しい。
- ・ 三鷹駅北口駅前広場は、障害者用乗降場の前後にタクシー乗り場とバス乗り場があるため利用しにくい。
- ・ バスが歩道に正着しないため、一度車道に降りてからバスや歩道に上ることになるため、危険である。
- ・ UD タクシー（NV200）が乗降場所に停車していない場合は、タクシープールまで呼びに行き利用することがある。

<バス・タクシー>

- バスについては、電光掲示板等の設置や運転手の意識の向上など一定の評価が得られた。
- バス車両では電光掲示板の側面設置や車外放送の充実、バス停留所では上屋整備やバス接近情報の充実等の要望がある。
- バス運転手に対しては、乗車拒否や障害者への対応・態度に対する不満や、他乗客に対する理解を促す案内の充実の要望などがある。
- 車いす・ベビーカーでのムーバス利用の難しさや、境地域から市役所までのバス路線の設置要望等がある。
- UDタクシーの乗車拒否などについても問題が指摘された。

- ・バス車内における電光掲示等による情報提供に対し評価があるが、混雑時には見えないため側面にも設置があるとよい。
- ・バス車両からの車外案内がないものや音が小さいものがある。
- ・バス停留所における上屋設置やバス接近表示が充実するとよい。
- ・バス運転手の対応は以前に比べてよくなったとの評価もあるが、人によって障害者に対する対応の方法（電動車いすの扱い等）が異なり、手帳提示時の舌打ちやイライラした対応で不快な思いをすることがある。
- ・バス停留所で車いすやベビーカーが待っているときに乗車拒否が見られる。
- ・車いすが乗降車するときは時間がかかるため乗務員から他の乗客に「車いすが利用する」ことや「少々お待ちください」など声掛けを行ってほしい。
- ・ムーバスは狭い停留所が多く、混雑していることも多いため、車いすでは利用が難しい。
- ・境地域から市役所方面へのバス路線の設置を望む声が多くあった。
- ・UD タクシーは車いすでの利用に時間がかかり、大型の車いすでは利用できないこと、乗車拒否などがある。

<道路>

- 横断歩道接続部の歩車道境界段差について、工夫が必要との意見があった。
- 歩道の狭さや歩道舗装の凸凹、歩車道境界の段差、歩道勾配、自転車の利用マナーについての意見が多い。ベンチ設置を望む声も聞かれる。
- 視覚障害者誘導用ブロックの駅周辺での整備に一定の評価があるが、駅周辺外でも整備推進が必要との意見があった。
- 自転車利用マナー、自転車通行環境整備の必要性が指摘された。

- ・ 五日市街道の歩道が狭いとの意見が多い。
- ・ 横断歩道に接続する歩車道境界段差について、車いすの通行部分の段差をなくすなど工夫が必要との意見があった。
- ・ インターロッキングブロック舗装等によるがたつきや、根上がりによる舗装の凸凹、車両乗入部等における急な横断勾配の改善を望む声がある。
- ・ 視覚障害者誘導用ブロックは駅周辺においては整備が進んだとの評価がある。今後は駅周辺以外でも整備推進が必要である。
- ・ 自転車道が設置されている路線については、歩道の安心感が高まり評価が得られている。歩道を通行する自転車の危険性について多くの指摘がある。
- ・ 歩道上にベンチの設置などを進めてほしい。

<信号機・横断歩道>

- 歩行者用青時間の改善や音響式信号機の設置に対する評価が確認された。
- 夜間対応や、音声案内内容の統一などについて意見がある。
- エスコートゾーンのさらなる整備推進が必要との指摘があった。

- ・ 歩行者用青時間も長くなり渡り切れるようになったとの評価もある。
- ・ 音響式信号機の設置が進んだことに対して評価されているが、夜間は停止し困ることがあるとの意見がある。音声の内容は統一した方がよい。ポール等から振動で信号の切り替えが分かるような施設があるとよい。
- ・ エスコートゾーンの整備が進んでいない。

<建築物>

- 建築物の改修等の整備が進みハード・ソフト両面からのバリアフリー化が進んだことに対する一定の評価が得られているが、新たな課題が確認された。
- 多機能トイレの機能分散、異性同伴・男女共用対応、大型ベッドの設置、エレベーターの大きさ改善や利用集中回避、道路から建物内までの視覚障害者誘導用ブロックの連続的な設置、乳幼児用設備の充実などが挙げられた。
- 公共施設では適切な予約方法、医療施設では診察時の障害者への配慮、商業施設等では支払い方法多様化・店員削減に対する不安、金融機関では ATM における高齢者・障害者に配慮した入力時間・機器の設定などの課題がある。
- ホテルにおける団体のイベント利用や、大学における交流活動や講座受講など、現在、生活関連施設に設定されていない施設での利用が確認された。
- 小学校におけるバリアフリー化の必要性も指摘された。

- ・ トイレについては、多機能トイレの利用集中に対して機能を分散化させて利用しやすくすることや、異性同伴による利用ができるように男女共用のトイレの設置、大人でも利用できる大型ベッドの設置などの要望がある。
- ・ エレベーターについては、リクライニング車いすや双子ベビーカーに対応可能なサイズの必要性が指摘されている。また、車いす・ベビーカー等の優先利用を促しているにもかかわらず、混雑により利用ができない事象が発生している。
- ・ 子育て世代は、商業施設内におけるベビールームやキッズスペースの設置について一定の評価（一部双子ベビーカーでは狭い等の意見あり）が得られており、ホール等におけるベビーカー置き場や飲食店等における個室利用などについて評価する意見がある。
- ・ コミュニティセンターを予約するために高齢者が午前 3 時から並ぶなどの状況が発生している。
- ・ 医療施設では、早口や声が小さい、筆談対応をしてくれないなど、聴覚障害の方の利用で不安を感じていることや、精神障害の方への対応も不安を感じるものがあるとの指摘があった。
- ・ 商業施設では電子マネー等の支払い方法が多様化していることや店員の削減等に対する不安（買い物支援等が受けられない）、外国人店員対応による理解不足など、技術の進展等による環境の変化に対し不安や戸惑い等が確認された。
- ・ 金融機関では、筆談対応などが進み一定の評価がある一方、もう聾者に対してサインを求める際に代筆拒否があることや、ATM の入力時間が早く高齢者や障害者など入力に時間がかかる人への配慮が不十分な点が確認された。
- ・ 吉祥寺第一ホテルや東急 REI ホテルについて、団体での記念イベントや謝恩会、クリスマスパーティ等の利用がされており、吉祥寺第一ホテルでは UD トイレや食事への配慮等も行われているが、一部、エレベーターが不便な点等が指摘された。
また、個室で飲食可能なため子育て世代の利用がある。
- ・ 市内の大学では、成蹊大学や亜細亜大学の利用があり、大学の研究室やボランティア団体との交流活動や、市民講座の受講、障害当事者が講師となる講話・出前講座等が確認された。
- ・ 小学校は複籍交流や避難所としての利用があり、バリアフリー化の必要性が指摘された。

<公園>

- 利用上の不便点等の意見は少ないが、トイレの時間制限について改善の必要性が指摘された。
- 井の頭公園の吉祥寺駅側から車いすでアクセスが困難である。
- 障害のある方でも楽しめる公園整備を望む声を確認できた。

- ・ 公園のトイレは時間制限があり夜間の利用ができないため、IC カードなどを活用して必要な人が利用できるようにした方が良いとの意見があった。
- ・ 井の頭公園については、三鷹市側からはバリアフリー経路が確保されているが、吉祥寺駅側からは階段しかなく、車いすでのアクセスができないとの指摘があった。
- ・ 他公園の事例から、花壇の高さなど車いすの人でも楽しめるように配慮された公園を望む声が確認できた。

<心のバリアフリー>

- 心のバリアフリーの取り組みやヘルプマークの普及が進み障害理解が進み声掛けの機会が増えていたとの評価があるが、声掛けを望まない人がいることも確認された。
- 子ども用の車いすなどに対する理解促進が必要である。
- 店舗等における障害者等への対応の充実を充実させていく必要がある。
- バリアフリー化が進み利用できる環境が整っても、運用面で利用できないことが発生しており、より一層の啓発の必要性が確認できた。
- 交流や教育機会等を活用してより一層の心のバリアフリーの推進が必要である。

- ・ 武蔵野市は他の地域よりも障害理解が進んでいるとの認識がある。
- ・ 学校で障害当事者が話す機会が増えてきている。啓発の機会は増えている。以前に比べ、子どもなどに街中で声掛けされることが多くなった。
- ・ バス乗車時に学生や年配の女性などから気遣ってもらえることがある。
- ・ ヘルプマークの普及により障害に対する理解促進が図られた。一方で声掛けを望まない人もいるため、声掛け不要であることがわかるマークがあるとよい。
- ・ 一方で、望まないにもかかわらず過剰なお客様対応も見られるようになった。
- ・ 子供用の車いすについてもっと理解をしてほしい。
- ・ 店舗等での耳マークや筆談対応、補助犬対応などが増えていくとよい。盲導犬等の入店拒否などがある。画面をタッチする場合、視覚障害者では操作ができない。従業員の教育も必要。
- ・ 商店街では視覚障害者誘導用ブロック上へものが置かれていることがある。
- ・ 優先エレベーター、優先席であっても譲ってもらえないことがある。
- ・ タクシーの乗車拒否がある。
- ・ パラリンピックの影響もありパラスポーツを取り入れた教育機会が増え、精神障害などの福祉教育の機会が減っている。
- ・ 精神障害や発達障害については、8050 問題（ひきこもり当事者と親の高齢化）や犯罪事件、芸能人の不祥事によるイメージ悪化などがあり、心のバリアフリーに対する期待するところがある。
- ・ ふれあいや交流の機会、当事者が話す機会を増やす、市における心のバリアフリー宣言などがあるとよい。

<案内サイン・情報>

- 案内サインの設置や見やすさ、図記号の充実、案内所の設置などに対し評価があった。
- ホームページやアプリを活用したバリアフリー情報の充実が必要との意見があった。
- デジタルサイネージが普及する場合は視覚過敏の方への配慮が必要である。

- ・武蔵境駅の駅前広場の案内板の設置や、内容の見やすさ等に対して一定の評価が得られた。
- ・市役所などでは図記号による案内が増えてわかりやすくなった。図記号のみではわからない人もいるため文字も併記した方が良い。
- ・サンロードの案内所は直接人に聞けるので良い。人による案内がある場所を地図等に記載して案内できるとよい。
- ・市のホームページや民間のアプリ等を活用し、バリアフリー情報（トイレ情報、大型ベッドの設置位置、ベビーカーで利用できる施設等）を充実する必要がある。
- ・デジタルサイネージが増えてきているが、視覚過敏の人には刺激が強いことがあるので配慮が必要である。

3.4 既往資料からの市民意見の収集

(1)抽出対象

- ・平成30年度市政アンケート
- ・第六期長期計画検討時の意見(市議会・パブリックコメント・意見交換会・職員意見等)

(2)市民意見の主な内容 ◎…特に多い要望

■道路のバリアフリー

- ◎歩道の拡幅・電線類地中化・がたつき・勾配の改善など(五日市街道・井の頭通り・女子大通りほか)
- ◎ベンチ等休憩施設の設置
- ・放置自転車・不法占有の撤去・指導(主に駅周辺)
- ・街路樹・植栽帯や舗装の適正管理

■交通安全対策

- ◎武蔵境駅付近のビル風の危険
- ・駅周辺の自転車押し歩き誘導
- ・武蔵野中央交差点の改善
- ・信号機の改善(青時間調整など)
- ・信号機のない横断歩道の安全対策・横断歩道の設置(武蔵境駅北口)

■自転車対策

- ◎駅周辺駐輪場の整備
- ◎自転車通行環境の整備による歩行者・自転車の安全確保

■ムーバス改善

- ◎路線の追加(境～緑町(市役所)等へ行きやすく)・経路の見直し
- ・便の追加・朝夜の運行・案内(路線・乗り場・時刻表)の充実

■駅前広場整備

- ◎吉祥寺南口駅前広場の整備展望を示す
- ・身障者用乗降場の確保・利便性向上(位置の改善・上屋の設置)

■建築物のバリアフリー(サービス向上を含む)

- ◎武蔵野公会堂の建て替え・市民プールの再整備
- ◎コミセンへのエレベーター設置(本町)・冷暖房設置(西部)
- ◎コミセンの適切な窓口対応・利用・予約方法の統一・利便性向上
- ◎市職員の適切な窓口対応(満足・不満それぞれ)
- ・中央図書館の利便性向上・リニューアル
- ・市政センターの対応業務の充実

■公園のバリアフリー

- ◎トイレの整備・維持管理
- ・樹木・雑草・舗装等のメンテナンス・日陰の確保

■情報提供

- ・ICT技術を活用した市民サービス向上、情報提供の充実

■心のバリアフリー・その他

- ◎自転車利用者マナーの啓発・歩きスマホ・タバコへの啓発
- ◎歩道沿いの喫煙所への対策
- ・障害理解の促進

4

評価と改定に向けた課題

4.1 基本構想の評価

(1) 評価すべき点

基本構想策定後、各事業者が作成した特定事業計画をもとに事業推進が図られ、全体の着手率は83%と高い数値となったことは高く評価できると言えます。

特定事業別に見ると、公共交通（鉄道）、都市公園、交通安全特定事業が90%以上の着手率となっています。

鉄道駅では、市内全ての駅で基本的に基準に適合したバリアフリー整備が実現しました。吉祥寺駅の南北自由通路のリニューアルを含む改良事業や連続立体交差事業に伴う駅の改修など、駅の大規模改修により駅施設の再整備が行われ利便性が高まりました。これにより、安全に駅を利用できるようになり、まちなかからホームまでのバリアフリー化された経路による移動時間の削減に寄与しています。基本構想策定当時、技術面や費用面からの検討が必要とされ、特定事業への位置づけが困難であったホームドアの設置についても一部で実現が図られています。

また、バス事業者ではノンステップバスの導入が進むとともに、車内の情報表示機器の設置や多言語化、駅前広場における総合案内版の設置などにより利用しやすい環境整備が進みました。運転手の対応なども以前より良くなってきたとの声もあります。

建築物では、ハード面だけでなく、情報面や心のバリアフリーの推進について、それぞれ独自の工夫で取り組んでいる状況も把握されました。特に民間建築物での特定事業の着手率は高く、ハード・ソフト一体的な取り組みが進んでいます。

高齢者や障害者、子育て中の親等の利用者の視点からの評価では、吉祥寺駅や武蔵境駅の大規模改修や3駅周辺整備（特に武蔵境駅南口駅前広場整備）、ノンステップバスの導入や運転手・乗客からの声掛けの増加、歩道のバリアフリー化（歩車分離の推進や視覚障害者誘導用ブロックの設置等）、音響式信号機の導入や歩行者青時間の改善、建築物におけるエレベーター整備や授乳室の設置、公園におけるベンチの設置、心のバリアフリーの推進（交流機会の創出や声掛けの増加等）等に対し、バリアフリー化の成果が実感されています。

(2) 利用者意見等を踏まえた課題

前項では、事業計画に基づく事業推進が図られ、利用者もバリアフリーの成果を実感している点を示しましたが、バリアフリー化の推進に伴い新たな面での課題が確認されています。

特定事業別の利用者意見等を踏まえた課題を以下に示します。

表 4-1 利用者意見等を踏まえた課題（特定事業別）

事業種別		利用者意見等を踏まえた課題
公共交通 特定事業	鉄道	<ul style="list-style-type: none"> エレベーターやトイレの利用集中への対応。 エレベーターの位置などバリアフリールートของわかりやすさの向上。 ホームドアの設置などホーム上での安全性のさらなる向上。 無人改札における障害者利用への配慮。（切符利用への対応等） 遅延等に伴う入場規制時における適切な情報提供と人的対応。
	バス	<ul style="list-style-type: none"> ノンステップバスのさらなる導入推進。 バス車内における一層の情報提供充実の検討。（情報表示機器の側面設置等） バス車外の音声案内の充実、バス停留所における上屋・バス接近表示等の一層の推進。 バス乗降時の安全性を高めるため歩道への正着の徹底。 バス運転手について、乗車拒否への対応、車いすやベビーカー利用時の他乗客への声掛け、手帳提示時の対応等に対するより一層の配慮。
	タクシー	<ul style="list-style-type: none"> 新たな対象となるUD タクシーの乗車拒否などへの対応。 駅前広場における車いす使用者等のUD タクシー利用時の運用方法の検討。 運転手の手帳提示時の対応等に対するより一層の配慮。
道路 特定事業		<ul style="list-style-type: none"> 歩道のバリアフリー化の一層の推進。 駅周辺以外における視覚障害者誘導用ブロックの整備推進。 横断歩道接続部における歩車道境界段差の処理方法の確認。 駅前広場における利用しやすい障害者用の乗降場所の確保。 歩道上での自転車利用への対策（自転車利用マナーの徹底）。
都市公園 特定事業		<ul style="list-style-type: none"> トイレの利用時間制限に関する運用上の対応の検討。 車いすやベビーカー等でも利用しやすい園路の確保。 車いす等でも楽しめる公園施設の検討。（花壇の高さなど） 公園内の自転車利用への対応。 井の頭公園における吉祥寺駅方面からの高低差の改善。
建築物 特定事業		<ul style="list-style-type: none"> エレベーターやトイレの利用集中への対応。 トイレにおける異性同伴・男女共用利用ニーズ対応や大型ベッドの設置推進。 道路と連続した視覚障害者誘導用ブロックの設置の検討。 大型車いすや双子ベビーカーに配慮した大きさの配慮の徹底。（エレベーター等） ベビールームやキッズスペースなどの乳幼児設備の充実。 高齢者・障害者に配慮した適切なサービス提供・運用の検討。 （公共施設における予約方法、医療施設における診察の配慮、商業施設における支払い・店員サービスの対応、金融機関におけるATMの配慮等）
交通安全 特定事業		<ul style="list-style-type: none"> 駅周辺以外における音響式信号機のさらなる整備推進。 音響式信号機の夜間運用の検討や音声内容の統一化。 エスコートゾーンのさらなる整備推進。 広幅員の横断歩道での青信号時間の確保。 歩行者が多く横断している箇所での横断歩道の設置の検討。
共通		<ul style="list-style-type: none"> 適切に機能が発揮できるよう維持管理の徹底

特定事業以外の利用者意見等を踏まえた課題を以下に示します。

表 4-2 利用者意見等を踏まえた課題（特定事業以外）

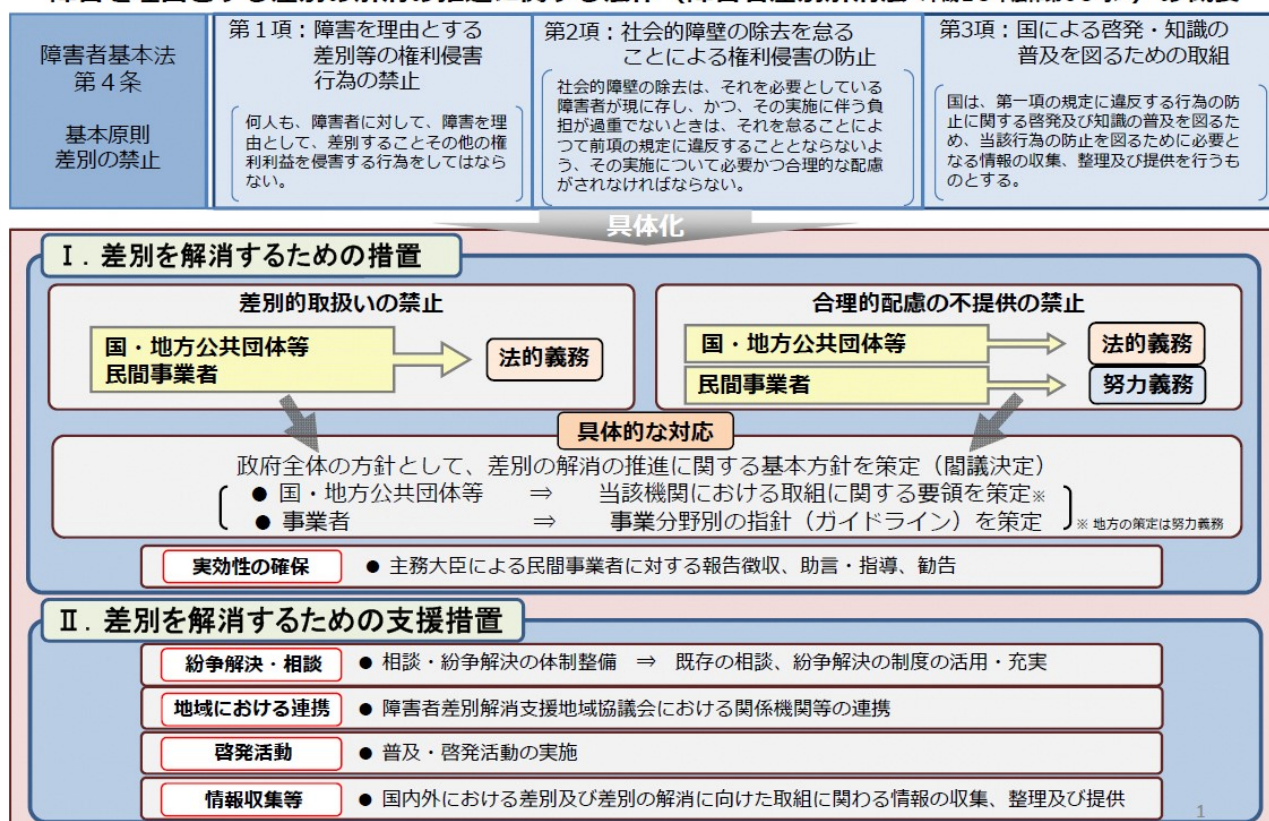
項目	利用者意見等を踏まえた課題
当事者参加	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業実施段階における利用者意見の反映方法の検討（対象施設の設定等含む）
心のバリアフリー	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害の社会モデルを基本とした心のバリアフリーの一層の推進。（学校での教育・交流、地域での交流イベント、障害当事者を含めた防災訓練等） ・ 子育て世代の手助けも含めた心のバリアフリーの推進。 ・ 声掛けを望まない障害者への対応。 ・ 子ども用車いすの理解の促進。 ・ 歩行環境の安全を高めるための自転車の利用マナーの推進。
情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多様な利用ニーズに応えられるバリアフリー情報提供の充実 ・ デジタルサイネージの普及に対応した配慮。（視覚過敏への対応等）
対象者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外国人、性的マイノリティなどの対象者も含めたバリアフリーの推進 ・ 知的・精神・発達障害に対応した取組みの一層の推進（パニック時の対応）

4.2 現行基本構想策定以降の社会情勢の変化

(1) 障害者差別解消法

国連の「障害者の権利に関する条約」の締結に向けた国内法制度の整備の一環として、障害を理由とする差別の解消を推進することを目的として、平成25年6月、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（以下、障害者差別解消法と称す）が制定されました。

障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法＜平成25年法律第65号＞）の概要



施行日：平成28年4月1日（施行後3年を目途に必要な見直し検討）

(2) 改正バリアフリー法

平成 30 年 11 月にバリアフリー法が改正されました。改正概要は以下の通りです。

1. 背 景

2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機として、全ての国民が共生する社会の実現を目指し、全国において更にバリアフリー化を推進するとともに、「一億総活躍社会」の実現に向けた取組を進めることが必要となっております。

2. 概 要

(1) 理念規定／国及び国民の責務

- 理念規定を設け、バリアフリー取組の実施に当たり、共生社会の実現、社会的障壁の除去に留意すべき旨を明確化
- 国及び国民の責務に、高齢者、障害者等に対する支援（鉄道駅利用者による声かけ等）を明記し、「心のバリアフリー」の取組を推進

(2) 公共交通事業者等によるハード・ソフト一体的な取組の推進

- エレベーター、ホームドアの整備等のハード対策に加え、駅員による旅客の介助や職員研修等のソフト対策のメニューを国土交通大臣が新たに提示
- 公共交通事業者等に対し、自らが取り組むハード対策及びソフト対策に関する計画の作成、取組状況の報告及び公表を義務付け

(3) バリアフリーのまちづくりに向けた地域における取組強化

- 市町村が、駅、道路、公共施設等の一体的・計画的なバリアフリー化を促進するため、個別事業の具体化を待たずにあらかじめバリアフリーの方針を定める「マスタープラン制度」を創設
- 近接建築物との連携による既存地下駅等のバリアフリー化を促進するため、協定（承継効）制度及び容積率特例制度を創設

(4) 更なる利用し易さ確保に向けた様々な施策の充実

- 従来の路線バス、離島航路等に加え、新たに貸切バス・遊覧船等の導入時におけるバリアフリー基準適合を義務化
- 従来の公共交通機関に加え、新たに道路、建築物等のバリアフリー情報の提供を努力義務化
- バリアフリー取組について、障害者等の参画の下、評価等を行う会議を設置

出典：国土交通省

高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（改正後）の概要

※改正法は平成30年5月25日公布、平成30年11月1日施行（一部の規定は平成31年4月1日施行）

※赤字は主な改正点

1. 基本理念

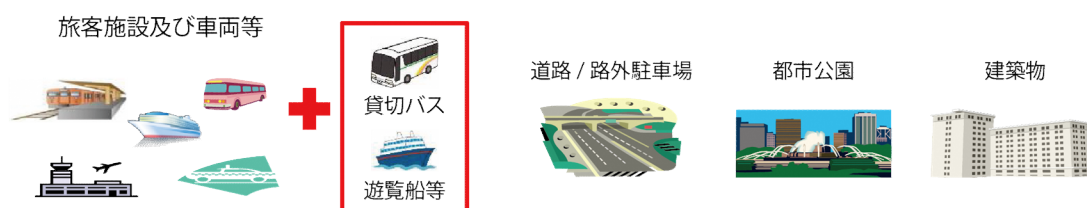
バリアフリー法に基づく措置は、「**共生社会の実現**」「**社会的障壁の除去**」に資することを旨として行われなければならないことを基本理念として明記

2. 公共交通施設や建築物等のバリアフリー化の推進

- ・移動等円滑化基準の適合については、**新設等は義務、既存は努力義務**
- ・新設等・既存にかかわらず、基本方針において各施設の整備目標を設定し、整備推進

○**貸切バス、遊覧船等**について法の適用対象に追加

○各施設設置管理者について**情報提供の努力義務**



○公共交通事業者等による**ハード・ソフト一体的な取組の推進**

→ハード対策に加え、接遇・研修のあり方を含む**ソフト対策**として、**事業者が取り組むべき内容（「判断の基準」）**を国交大臣が新たに作成

→事業者が、**ハード・ソフト計画※の作成・取組状況の報告・公表を行う制度**を創設

※施設整備、旅客支援、情報提供、教育訓練、推進体制 等

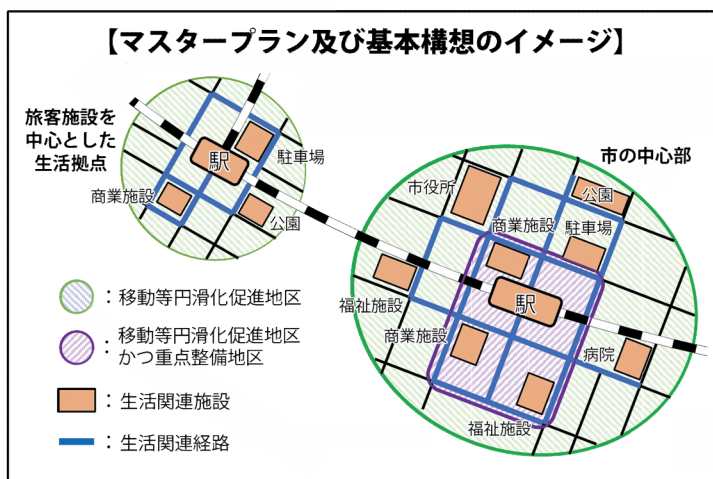
3. 地域における重点的・一体的なバリアフリー化の推進

- ・市町村が作成する基本構想に基づき、重点整備地区において重点的かつ一体的なバリアフリー化事業を実施

○市町村が**移動等円滑化促進方針（マスタープラン）**を定める制度を創設

○基本構想・**マスタープランの作成、定期的な評価・見直しを努力義務化**

○駅等の旅客施設にスペースの余裕がない場合に、**近接建築物への通路・バリアフリースイレ整備を促進するため、協定（承継効）・容積率特例制度を創設**



4. 心のバリアフリーの推進、当事者による評価等

- ・バリアフリー化の促進に関する国民の理解・協力の促進等（「**心のバリアフリー**」の重要なポイントとして、**国及び国民の責務に高齢者、障害者等に対する支援を明記**）

○国が、高齢者、障害者等の関係者で構成する会議を設置し、**定期的に、移動等円滑化の進展の状況を把握し、評価する努力義務**

国土交通省資料をもとに作成

(3) 令和 2 年 2 月 バリアフリー法の改正法律案の閣議決定

令和 2 年 2 月にバリアフリー法の改正法立案が閣議決定されました。改正概要は以下の通りです。

1. 背 景

2018 年 12 月のユニバーサル社会実現推進法の公布・施行やオリパラ東京大会を契機とした共生社会実現に向けた機運醸成等を受け、「心のバリアフリー」に係る施策などソフト対策等を強化することが必要となっております。

2. 概 要

(1) 公共交通事業者など施設設置管理者におけるソフト対策の取組強化

- 公共交通事業者等に対して、スロープ板の適切な操作や照度の確保等のソフト基準の遵守を義務付け
- 公共交通機関の乗継円滑化のため、移動等円滑化の措置の協力に関する公共交通事業者等同士の協議への応諾義務を創設
- 障害者等へのサービス提供について国が認定する観光施設（宿泊施設・飲食店等）の情報提供を促進

(2) 国民に向けた広報啓発の取組推進

【優先席、車椅子使用者用駐車施設等の適正な利用の推進】

- 国・地方公共団体・国民・施設設置管理者の責務等として、「車両の優先席、車椅子用駐車施設、障害者用トイレ等の適正な利用の推進」を追加
- 公共交通事業者等に作成が義務付けられたハード・ソフト取組計画の記載項目に「上記施設の適正な利用の推進」等を追加

【市町村等による「心のバリアフリー」の推進】

- 目的規定、国が定める基本方針、市町村が定める移動等円滑化促進方針（マスタープラン）の記載事項や、基本構想に記載する事業メニューの一つとして、「心のバリアフリー」に関する事項を追加
- 心のバリアフリーに関する「教育啓発特定事業」含むハード・ソフト一体の基本構想について、作成経費を補助
- バリアフリーの促進に関する地方公共団体への国の助言・指導等に関する規定を創設

(3) バリアフリー基準適合義務の対象拡大

- バリアフリー基準適合義務の対象施設に公立小中学校及びバス等の旅客のための道路施設（旅客特定車両停留施設）を追加するための規定の整備

出典：国土交通省

●高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律の一部を改正する法律案 ＜予算関連法律案＞

背景・必要性

2018年12月のユニバーサル社会実現推進法の公布・施行やオリパラ東京大会を契機とした共生社会実現に向けた機運醸成等を受け、「心のバリアフリー」に係る施策などソフト対策等を強化する必要

○ハード面のバリアフリーを進める※一方で、使用方法等ソフト面の対応が十分ではないため、高齢者・障害者等の移動等が円滑になされない事例が顕在化

※ 利用者数3千人以上/日の旅客施設の90%で段差解消、87%で障害者用トイレ設置(2018年度末)

①公共交通事業者等における課題

例1)車椅子の乗車方法に関し、公共交通事業者の習熟が必要との指摘。
例2)交通結節点における接遇を含めた関係者の連携が必要であるとの指摘。(平成30年改正時の附帯決議)

○公共交通事業者など施設設置管理者について、ハード整備とともに、**ソフト面の対策の強化が必要**

②国民における課題

例)車両の優先席について、高齢者等に対し、声かけが恥ずかしい等の理由で譲らないケースも存在。

○オリパラ東京大会を契機とした**共生社会実現に向けた機運醸成**※1を受け、**市町村、学校教育**※2等と連携して「心のバリアフリー」を推進することが必要

※1 「ユニバーサルデザインの街づくり」と「心のバリアフリー」に取り組む「共生社会ホストタウン」の拡大

※2 新学習指導要領※に基づき「心のバリアフリー」教育を実施
(※小学校で2020年度から、中学校で2021年度から全面实施)

法案の概要

1. 公共交通事業者など施設設置管理者におけるソフト対策の取組強化

○公共交通事業者等に対する**ソフト基準※適合義務**の創設(※ スロープ板の適切な操作、明るさの確保等)

○公共交通機関の乗継円滑化のため、他の公共交通事業者等からのハード・ソフト(旅客支援、情報提供等)の**移動等円滑化に関する協議への応諾義務**を創設

○障害者等へのサービス提供について国が認定する観光施設(宿泊施設・飲食店等)の情報提供を促進

2. 国民に向けた広報啓発の取組推進

(1)優先席、車椅子使用者用駐車施設等の適正な利用の推進

○国・地方公共団体・国民・施設設置管理者の責務等として、「**車両の優先席、車椅子用駐車施設、障害者用トイレ等の適正な利用の推進**」を追加

○公共交通事業者等に作成が義務付けられたハード・ソフト取組計画の記載項目に「**上記施設の適正な利用の推進**」等を追加

(2)市町村等による「心のバリアフリー」の推進(学校教育との連携等)(主務大臣に文科大臣を追加)

○目的規定、国が定める基本方針、市町村が定める移動等円滑化促進方針(マスタープラン)の記載事項や、基本構想に記載する事業メニューの一つとして、「**心のバリアフリー**」に関する事項を追加

【教育啓発特定事業のイメージ】

○心のバリアフリーに関する「**教育啓発特定事業**」を含むハード・ソフト一体の基本構想について、**作成経費を補助**(※予算関連)



高齢者疑似体験 車椅子サポート体験

○バリアフリーの促進に関する地方公共団体への国の助言・指導等

3. バリアフリー基準適合義務の対象拡大

○公立小中学校及び**バス等の旅客の乗降のための道路施設(旅客特定車両停留施設)**を追加

【目標・効果】共生社会の実現に向け、高齢者、障害者等を含む全ての人々が互いの個性を尊重しあう移動等の環境を整備

《KPI》「心のバリアフリー」の認知度:約24%(2019年度)→約75%(2030年度)

・国土交通省「トイレ利用マナーキャンペーン」の参加団体数:約1,700(2019年度)→約2,000(2025年度)

4.3 改定に向けた課題

(1)理念・目標について

・新たな法制度に基づく理念・目標の再設定

武蔵野市バリアフリー基本構想の目標年次である平成32年度（令和2年度）を目前に控え、平成30年11月にはバリアフリー法が改正され、理念規定が設けられ、「共生社会の実現」「社会的障壁の除去」に資することを旨として行われなければならないことが明記されました。現行基本構想の期間中に障害者差別解消法も制定されており、これらを踏まえた目標の再設定が必要です。

・対象者の拡大

対象者では、身体障害者だけでなく、知的・精神・発達障害者等へのさらなる配慮や、双子ベビーカー利用者を含む子育て世代などの様々な人にも配慮したバリアフリー推進などが求められています。

(2)地区・施設・経路について

・改正法を踏まえたバリアフリー整備の充実と拡大の検討

特定事業の着手率が83%と一定程度の成果を上げ、利用者からも一定の評価を得ていますが、駅周辺以外での整備推進やコミュニティセンターなどの地域の核となる施設も含めた連続的なバリアフリー環境の充実が必要です。また、現在の地区内についても対象施設以外における利用実態を踏まえたバリアフリー環境のさらなる充実が必要です。

また、令和2年2月に閣議決定された法律案では公立小中学校がバリアフリー基準適合義務の対象として拡大されたことから、検討が必要です。

(3)バリアフリー事業について

・未着手事業や新たな課題、特定事業における改正法への対応

特定事業について、未着手の事業等があるため、今後も引き続き事業推進を図っていく必要があります。また、今回のアンケート調査やヒアリング調査等でも指摘された新しい課題についても対応を検討していく必要があります。加えて、改正バリアフリー法で特定車両として追加されたタクシー・高速バス等の特定事業の追加も検討が必要です。

・ハード整備の効果が持続する運用・維持管理面の取組みの強化

エレベーターや多機能トイレが整備されても、利用集中により施設利用者が利用できない現状があること、また、整備されても場所がわかりにくく、さらに時間制限等により利用できないことなど、ハード整備が完了しても実際の利用の現場においては使いづらい状況が発生しています。駅が改修され利用しやすくなっても、遅延等に伴う入場規制等に対応するコミュニケーション等が難しい方が不安を感じていることも確認されました。

この問題の解決には、他の利用者の理解も必要ですが、各施設を管理する事業者の働きかけも重要と考えられます。百貨店における「おもいやりエレベーター」の工夫にも見られるように、施設運用を効果的に行うためのソフト面の取組みも必要です。また、摩耗や破損等により整備当初の機能を発揮できない状況になっている例もあります。基本構想で位置づけている心のバリアフリーの推進に加え、事業者の施設整備における利用者目線のきめ細かな対応や、継続的に状態が保たれるよう維持管理面での対応が重要です。

(4)ハード・ソフト一体的な取組みについて

・心のバリアフリーの一層の推進

令和2年2月のバリアフリー法改正法律案の閣議決定において、市町村等による「心のバリアフリー」の推進として、事業メニューの一つとして「心のバリアフリー」に関する事項の追加や、心のバリアフリーに関する「教育啓発特定事業」を含むハード・ソフト一体の基本構想の作成などが位置づけられており、国民に向けた広報啓発の取組み推進などが改めて示されています。市内でも必要性について意見も多くある現状を踏まえ、より一層の心のバリアフリーの推進を図っていく必要があります。

・新しいデジタル環境を踏まえたソフト面での対応方法の検討

電子マネー等の普及により、商業施設におけるセルフレジや支払い方法の多様化が進むことで、高齢者や障害者等の新しい機器に不慣れな方や人的支援を必要とする方にとって不安感が高まっていることが今回の調査で確認されました。自動化が進む中で人件費削減を図る企業努力に対し一定の理解はあるものの、これまでよりも障害者等の利用が困難になる可能性が高いと言え、これまでに発現していなかった潜在的な課題へも対応が必要です。

・ICT等バリアフリー情報提供の充実

バリアフリー環境の充実に伴い、利用者が必要とする設備等の所在地や事前学習のための情報など、バリアフリー設備等に関する情報提供の充実が必要になっています。子育て世代ではおむつ交換台や授乳室、重度障害の方では大型ベッドなど、必要とする情報は個々の利用特性によって異なり、これらの情報提供を適切に行っていく必要があります。改正バリアフリー法においてもバリアフリー情報の収集等によりバリアフリーマップ作成を促進していく枠組みが設けられており、これらを活用した情報提供の充実を図っていく必要があります。

(5)市民参加・体制について

・整備段階からの市民参加の仕組みづくり

施設が整備されても、実際の利用においてボタンの位置や点字表記などにおいて使いづらいものがあることが指摘されています。これらを予防するため、整備段階から施設利用者の意見を求めることの必要性が指摘されています。今後の後期事業計画を進めていく上では、施設利用者参加を行いながら事業が進められるような仕組みを作っていく必要があります。

5.1 改定方針の目的

本市では、バリアフリー法に基づき「武蔵野市バリアフリー基本構想」を平成23年4月に策定しました。

現行基本構想の事業期間が令和2年度で終了すること、バリアフリー法改正や障害者差別解消法の施行を踏まえ、令和3年度以降のバリアフリー事業の推進のため武蔵野市バリアフリー基本構想の改定を行います。

本改定は、改正バリアフリー法に基づく「武蔵野市バリアフリー基本構想（仮称）」（以下「改定基本構想」という。）を令和2年度までに策定するため、バリアフリー法の変更点や現行基本構想の評価結果を受け改定の方針を示すものです。

5.2 改定の基本的な考え方

武蔵野市バリアフリー基本構想の改定に関する基本的な考え方を以下に示します。

- 改正バリアフリー法に基づく改定を行うこと。
- 現行基本構想の評価を反映した改定を行うこと。
- 先進的な知見や事例等を取り入れた改定を行うこと。

5.3 改定の方向性

改正バリアフリー法の変更項目や現行基本構想の評価結果等を踏まえ、武蔵野市バリアフリー基本構想の改定の方向性を以下の通り設定します。

- ①改正法を踏まえた理念・目標を再設定します。
- ②促進地区の考え方も含めた地区の再設定、生活関連施設・生活関連経路の充実を行います。
- ③地区の再設定等を踏まえた特定事業等の充実を行います。
- ④ハード・ソフト一体的な取組みとしてソフト面のバリアフリー推進を強化します。
- ⑤これまでの推進体制を継続しつつ、より市民参加を取り入れた改定・事業推進体制を整えます。

5.4 改定の方針

改定の方向性を踏まえて、「改定に向けた課題」を以下のとおり整理し、改定の方針（案）を作成しました。

改定に向けた課題	改定の方向性及び方針
(1) 理念・目標 <ul style="list-style-type: none"> 新たな法制度に基づく理念・目標の再設定 対象者の拡大 	理念・目標の充実 <ul style="list-style-type: none"> ○「共生社会の実現」「社会的障壁の除去」を踏まえた理念の充実 ○ 目標年次は令和 12 年度（2030 年度）
(2) 地区・施設・経路 <ul style="list-style-type: none"> 改正法を踏まえたバリアフリー整備の充実と拡大の可能性の検討 	地区設定の拡充、生活関連施設・生活関連経路の充実 <ul style="list-style-type: none"> 地区：現行の3地区を基本に地区を拡大（促進地区含む）市全域のバリアフリー化の考え方の明示 施設：広域的利用がある施設、生活拠点施設の追加 公園以外の生活関連経路沿いの小規模施設を追加 経路：施設追加にあわせた経路の追加 歩行者ネットワークの軸となる経路の追加(市全域)
(3) 特定事業 <ul style="list-style-type: none"> 未着手事業や新たな課題への対応 特定事業における改正法への対応 整備の効果が持続する運用・維持管理面の取組みの強化 	特定事業等の充実 <ul style="list-style-type: none"> ○未実施事業の継続 ○新たな課題や新規施設・経路に対応した特定事業等の追加 ○タクシー事業者等の追加 ○各実施事業における効果の維持・管理の検討
(4) ハード・ソフト一体的な取組 <ul style="list-style-type: none"> 心のバリアフリーの一層の推進 新しいデジタル環境を踏まえたソフト面での対応、可能性の検討 ICT 等バリアフリー情報提供の充実 	ソフト面の取組みの拡充 <ul style="list-style-type: none"> ○心のバリアフリーの具体的な事業についての記載（教育啓発特定事業等） ○接遇・接客等における高齢者・障害者への適切な対応の啓発 ○バリアフリー施設（ハード）と連動した情報発信（ソフト）の仕組みの記載
(5) 市民参加・体制 <ul style="list-style-type: none"> 整備段階からの市民参加の仕組みづくり 	市民参加の充実 <ul style="list-style-type: none"> ○バリアフリーネットワーク会議を活用した評価体制の継続 ○事業の推進段階でも市民参加が行える仕組みの検討

(1)理念・目標の充実

○「共生社会の実現」「社会的障壁の除去」を踏まえた理念の充実

現行基本構想にて「TWCC の理念に基づき、すべての人にやさしいUD のまちづくりの推進」を位置づけていますが、「共生社会の実現」「社会的障壁の除去」など改正バリアフリー法の理念を受けたソフト対策や障害理解啓発の一層の推進を位置づけます。また、身体・知的・精神・発達障害者へのさらなる配慮や、双子ベビーカー利用者を含む子育て世代などにも配慮したバリアフリー推進を位置づけます。

○目標年次は令和 12 年度（2030 年度）

現行の移動等円滑化の促進に関する基本方針は平成 32 年度（令和 2 年度）を目標として設定されていますが、現在、見直しに向けて市で検討を進めています。これらの目標を踏まえた設定が必要となりますが、これまでの基本構想の目標設定を踏まえ、目標年次は令和 12 年度とし、前期、後期、展望期に分けて特定事業の実施時期を設定します。

(2)地区設定の拡充、生活関連施設・生活関連経路の充実

【地区設定】

○現行の 3 地区を基本に地区を拡大（促進地区含む）

バリアフリー法の改正を受け、市内全域への促進地区の指定を検討するとともに、現行の重点整備地区（3地区）の充実等を考えていきます。

○市全域を対象としたバリアフリーの考え方を示す

重点整備地区以外の地区において、コミュニティセンターなど市民利用施設は市全域に配置されています。重点整備地区の拡大という視点だけでなく、全市的な視点から、幹線的な道路におけるバリアフリー化の推進や公共施設等のバリアフリー化の促進を図り、バリアフリー水準の底上げを図っていくための地区設定を行います。

【生活関連施設等】

○広域的利用がある施設、生活拠点施設の追加

アンケートやヒアリング調査においても指摘のあった、多数の広域的利用があり市民の利用も見込まれる施設（大学やホテル）や、生活拠点性の高い施設（コミュニティセンター、子育て支援施設等）を追加します。小中学校についても基準適合義務の施設として追加されたことから、連携が取れるよう位置づけを行います。

○公園以外の生活関連経路沿いの小規模施設を追加

現行基本構想では、生活関連経路沿道にあり高齢者障害者等の移動を支援する機能を持つ都市公園を生活関連施設に位置づけていますが、この考え方を拡大し、生活関連経路に接するその他の小規模な施設についてもバリアフリー化により生活利便性が高まる施設として追加します。

（銀行、コンビニエンスストア、ミカレット等）

【生活関連経路】

○重点整備地区内では、上記の施設追加にあわせて経路の追加

生活関連施設の追加に併せて重点整備地区内では生活関連施設間を結ぶ経路の追加を行います。

○重点整備地区外では、歩行者ネットワークの軸となる経路の追加

重点整備地区外では、新たに追加する施設に併せて歩行者ネットワークの軸となる主要生活関連経路を位置づけていきます。

(3)特定事業等の充実

○未実施事業の継続と新たな課題や新規施設・経路に対応した特定事業等の追加

現行基本構想で未実施の事業については継続的に特定事業（可能な限り短期）に位置づけるとともに、ハード面だけでなく心のバリアフリーや運用面等のソフト面も含めた新たな課題への対応について特定事業（教育啓発特定事業等）の設定や新規施設・経路における特定事業等の設定を行います。

○新規にタクシー事業者等を追加し特定事業を設定

改正バリアフリー法で特定車両として追加されたタクシーについては特定事業の対象として追加を行います。また、高速バス事業についてもリフト付き車両等の整備推進が進むのに合わせて道路側の構造等の対応も必要となるため、市内路線での導入予定等を確認し対応を検討します。

○各事業におけるソフト対策の取組強化

現行基本構想においても「心のバリアフリー」に関する事業を設定しているが、心のバリアフリーの一層の推進も踏まえ、各事業におけるソフト面の対策を強化していきます。

(4)ソフト面の取組みの拡充

○心のバリアフリーの具体的な方策についての記載

事業者等における接客・接遇場面での心のバリアフリーの具体的な推進や、市民一人ひとりの心のバリアフリーの推進について、「教育啓発特定事業」等を設定し、多様な主体との交流機会出や障害理解の学習機会の創出等により具体的な実践を前提とした推進を行います。

○接遇・接客等における高齢者・障害者等への適切な対応の啓発

商業施設等において支払方法の自動化や人的サポートの縮小等が進む中、高齢者・障害者等への適切な対応が促進されるような、取組みを検討します。

○バリアフリー施設（ハード）と連動した情報発信（ソフト）の仕組みの記載

特定事業の推進に伴い各施設におけるバリアフリー設備等の充実が図られています。これらの情報も踏まえ、ICTの活用等も検討したうえで適切にバリアフリー情報を提供します。

(5)市民参加の充実

○バリアフリーネットワーク会議を活用した評価体制の継続

障害当事者及び事業者が参加するバリアフリーネットワーク会議について、事業や取り組みの実施段階における評価を継続的に行い、各事業へのフィードバックや情報発信等を行い、PDCAのサイクルによるスパイラルアップを図ります。

○事業の推進段階でも市民参加が行える仕組みの検討

各事業者が事業実施段階でバリアフリーに係る意見交換が行えるように、事業者の要請に基づき市民参加による支援が行えるような仕組みを検討します。

